

Ⅱ 結果の概要

第1 身体状況調査

1 肥満及びやせの状況

20歳以上の肥満者（BMI \geq 25kg/m²）の割合は、男性36.5%、女性27.6%であり、男性は60歳代、女性は30歳代が最も高い。

年齢調整したその割合は、平成21年度以降、20～60歳代男性は有意に増加しているのに対し、40～60歳代女性は有意に減少している。

※肥満の判定：BMI (Body Mass Index [kg/m²], 体重 [kg] / 身長 [m]²) を用いて判定 (日本肥満学会肥満症診断基準検討委員会 平成23年)

図1-1 肥満者 (BMI \geq 25kg/m²) の割合 (20歳以上、性・年齢階級別)

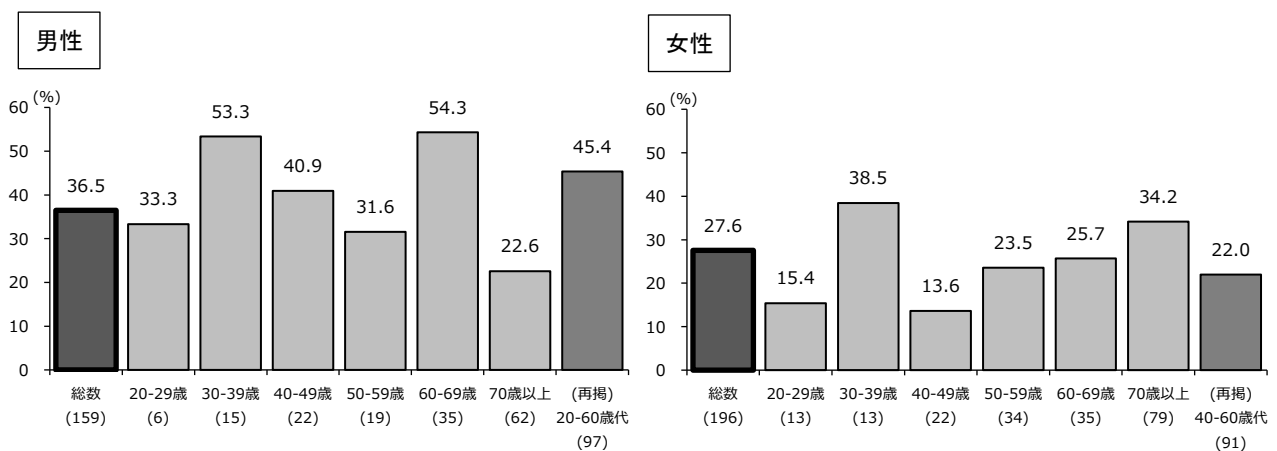


図1-2 肥満者 (BMI \geq 25kg/m²) の割合の年次推移 (性別)

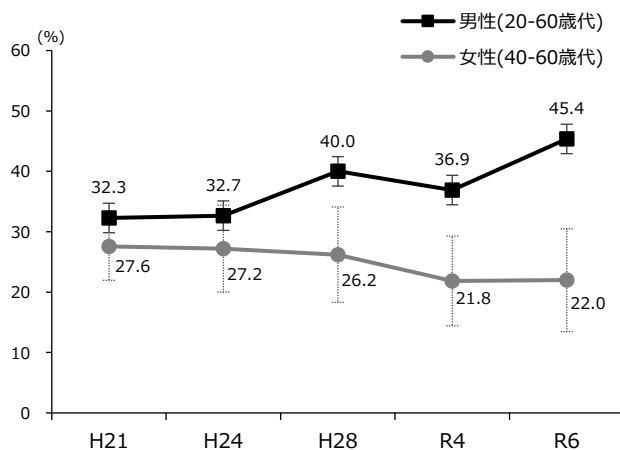
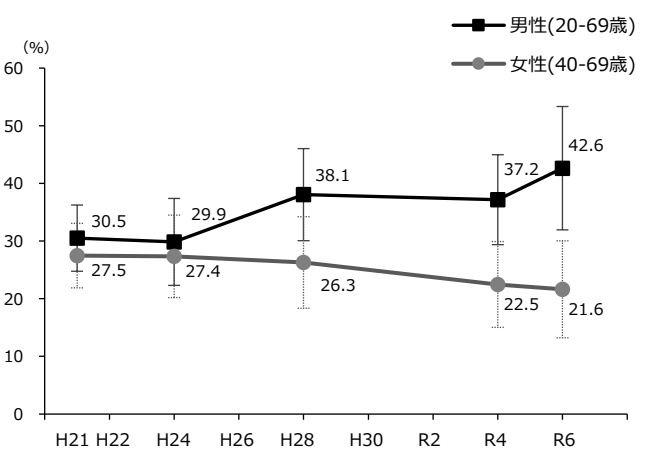


図1-3 年齢調整した、肥満者 (BMI \geq 25kg/m²) の割合の年次推移 (性別)



(令和4年度は、過去1年間に健診を受けた者のうち健診結果を自己申告した者を集計対象とした。)

※誤差線は、95%信頼区間を示す。

※年齢調整値は、令和2年国勢調査による基準人口 (男性は20-29歳, 30-39歳, 40-49歳, 50-59歳, 60-69歳の5区分、女性は40-49歳, 50-59歳, 60-69歳の3区分) を用いて算出した。

(参考) 「健康いわて21プラン(第3次)」の目標

適正体重を維持している者の増加

目標値：肥満者 (BMI25以上) の割合

男性 (20～60歳代) 30.0%未満

女性 (40～60歳代) 15.0%未満

20歳以上のやせ（BMI<18.5kg/m²）の者の割合は、男性1.9%、女性7.7%であり、男性は60歳代、女性は40歳代が最も高い。年齢調整した、その割合の年次推移は、平成21年度以降、男女ともに有意な増減はみられない。

65歳以上の高齢者の低栄養傾向（BMI≤20kg/m²）の者の割合は15.3%で、男性8.6%、女性20.6%である。

図1-4 やせの者（BMI<18.5kg/m²）の割合（20歳以上、性・年齢階級別）

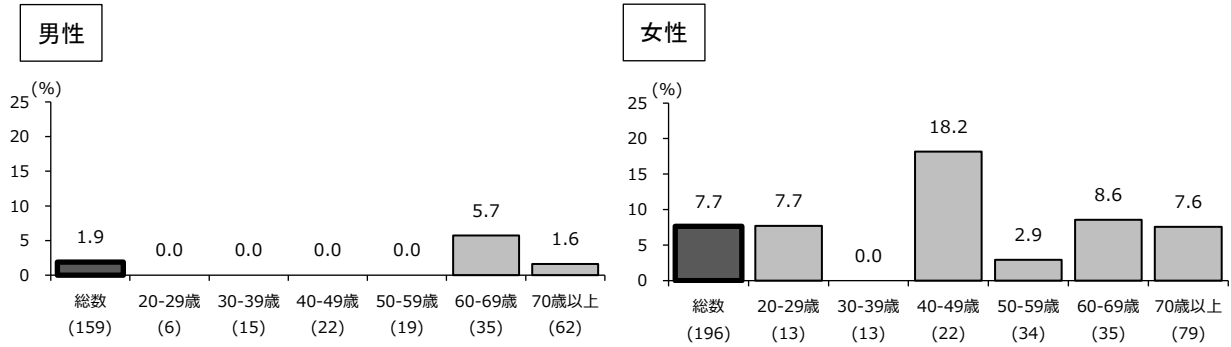


図1-5 やせの者（BMI<18.5kg/m²）の割合の年次推移（20歳以上、性別）

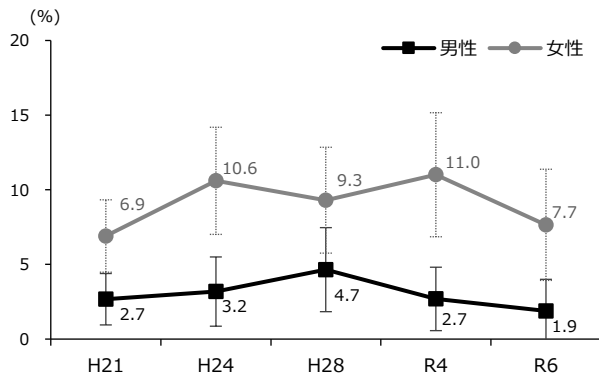
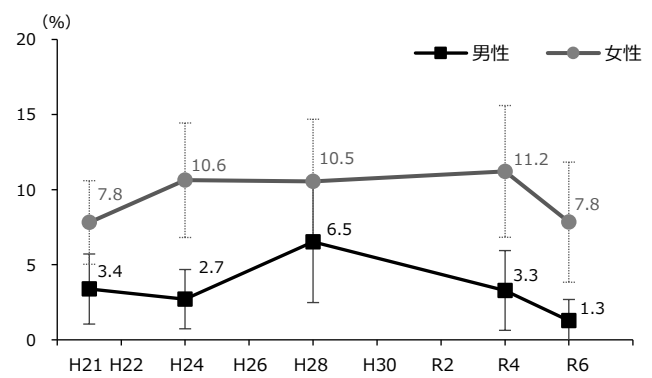


図1-6 年齢調整した、やせの者（BMI<18.5kg/m²）の割合の年次推移（20歳以上、性別）

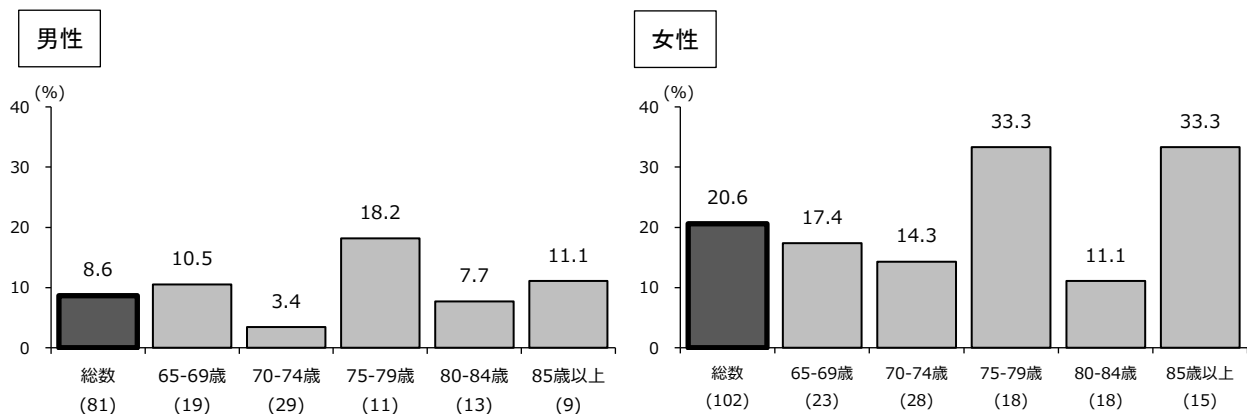


（令和4年度は、過去1年間に健診を受けた者のうち健診結果を自己申告した者を集計対象とした。）

※誤差線は、95%信頼区間を示す。

※年齢調整値は、令和2年国勢調査による基準人口（20-29歳、30-39歳、40-49歳、50-59歳、60-69歳、70歳以上の6区分）を用いて算出した。

図1-7 低栄養傾向の高齢者（BMI≤20kg/m²）の割合（65歳以上、性・年齢階級別）



（参考）「健康いわて21プラン(第3次)」の目標

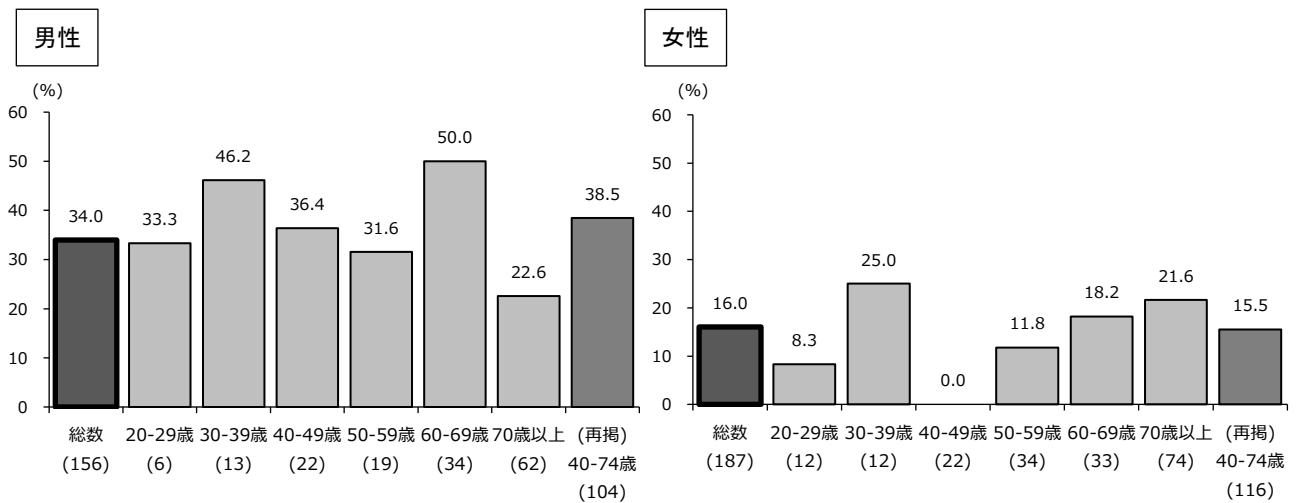
適正体重を維持している者の増加

目標値：低栄養傾向（BMI20以下）の高齢者の割合（65歳以上）13.0%未満

2 腹囲計測等による上半身肥満に関する状況

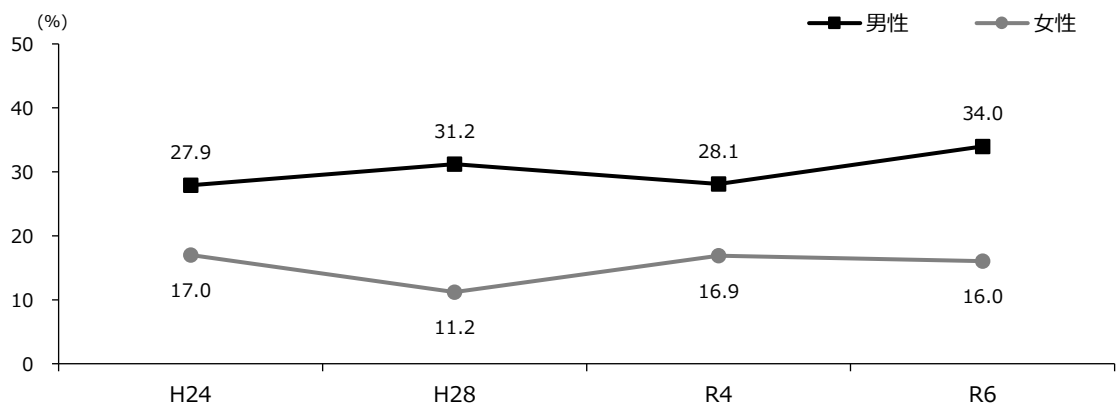
内臓脂肪型肥満の診断基準のひとつである「上半身肥満が疑われる者」の割合は、男性 34.0%、女性 16.0%である。

図 1-8 「上半身肥満が疑われる者」の割合（20 歳以上、性・年齢階級別）



※「上半身肥満が疑われる者」とは、BMI25 以上で、男性のウエスト周囲径 85 cm以上、女性のウエスト周囲径 90 cm以上を上半身肥満の疑いとする。

図 1-9 「上半身肥満が疑われる者」の割合の年次推移（20 歳以上、性別）



（令和4年度は、過去1年間に健診を受けた者のうち健診結果を自己申告した者を集計対象とした。）

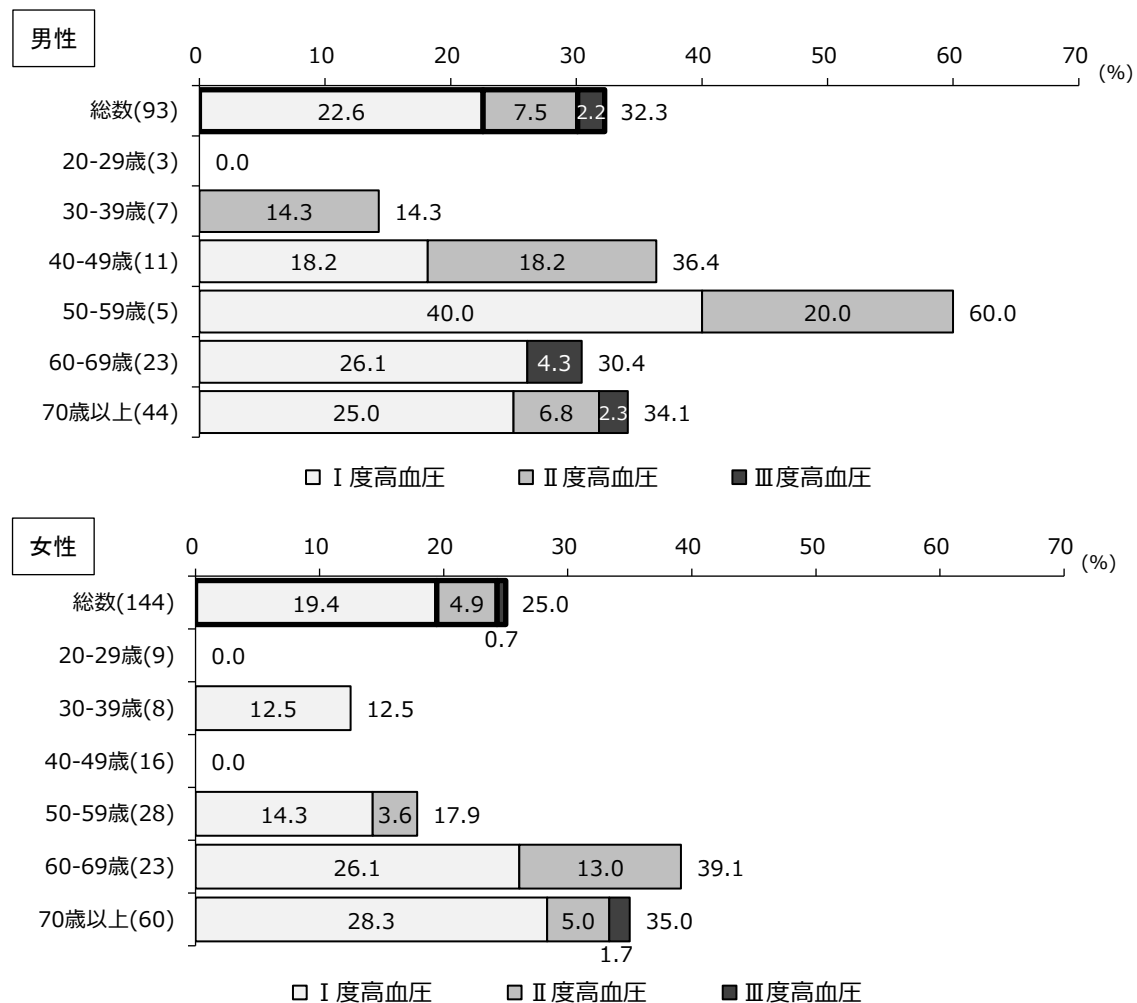
3 血圧に関する状況

高血圧の者の割合は、男性 32.3%、女性 25.0%である。年齢階級別では、男性は 50 歳代、女性は 60 歳代が最も高い。

収縮期（最高）血圧の平均値は、男性 131.5mmHg、女性 127.2mmHg であり、年齢階級別にみると、男性は 50 歳代、女性は 70 歳以上が最も高い。

最高血圧が 140mmHg 以上の者の割合は、男性 32.3%、女性 25.0%であり、年齢階級別にみると、男性は 50 歳代、女性は 60 歳代が最も高い。

図 1-10 高血圧の者の割合（20 歳以上、性・年齢階級別）

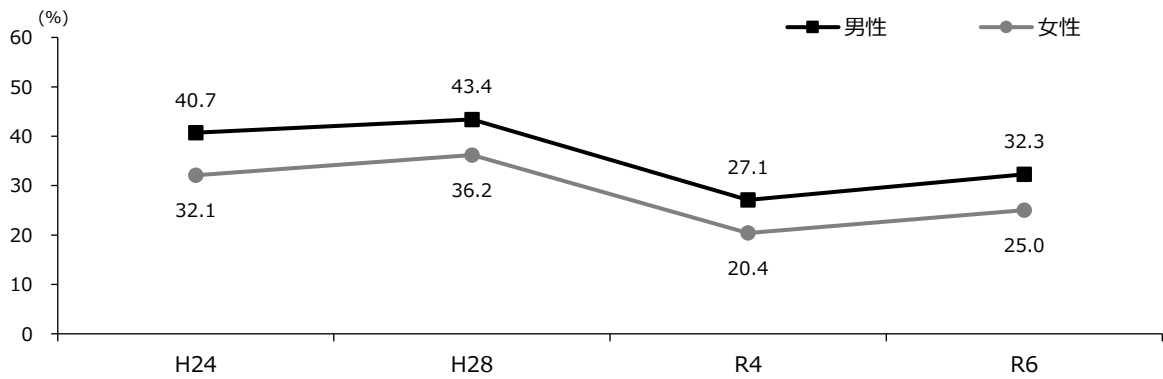


※血圧の分類

	収縮期血圧 (最高血圧) (mmHg)		拡張期血圧 (最低血圧) (mmHg)
正常血圧	120 未満	かつ	80 未満
正常高値血圧	120~129	かつ	80 未満
高値血圧	130~139	かつ/または	80~89
I度高血圧	140~159	かつ/または	90~99
II度高血圧	160~179	かつ/または	100~109
III度高血圧	180 以上	かつ/または	110 以上
(孤立性) 収縮期高血圧	140 以上	かつ	90 未満

出典：日本高血圧学会「高血圧管理・治療ガイドライン 2025」成人における血圧値の分類・診察室血圧

図1-11 高血圧の者の割合の年次推移（20歳以上、性別）



（令和4年度は、過去1年間に健診を受けた者のうち健診結果を自己申告した者を集計対象とした。）

図1-12 収縮期（最高）血圧の平均値（20歳以上、性別）

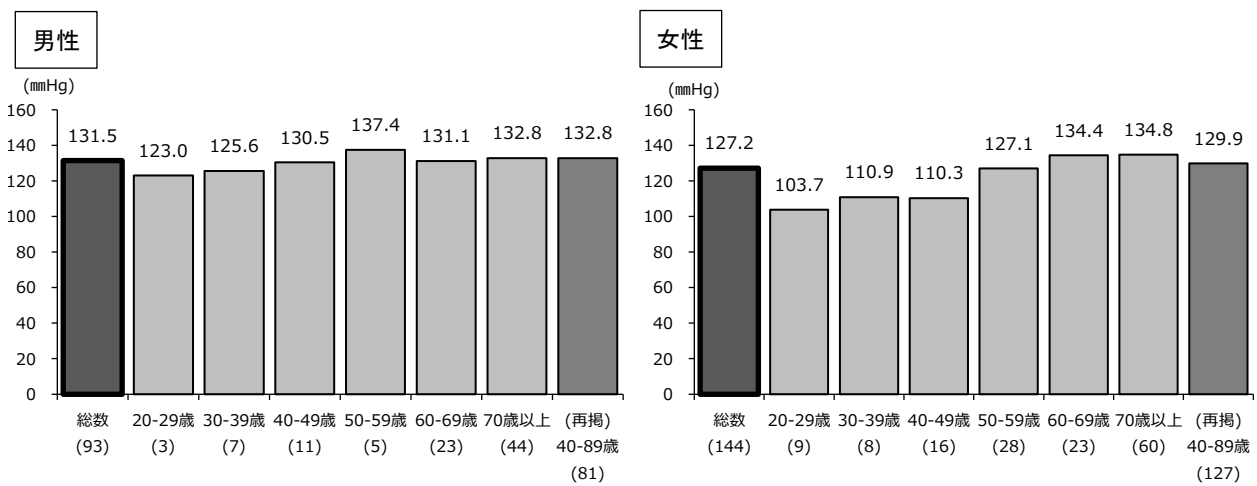
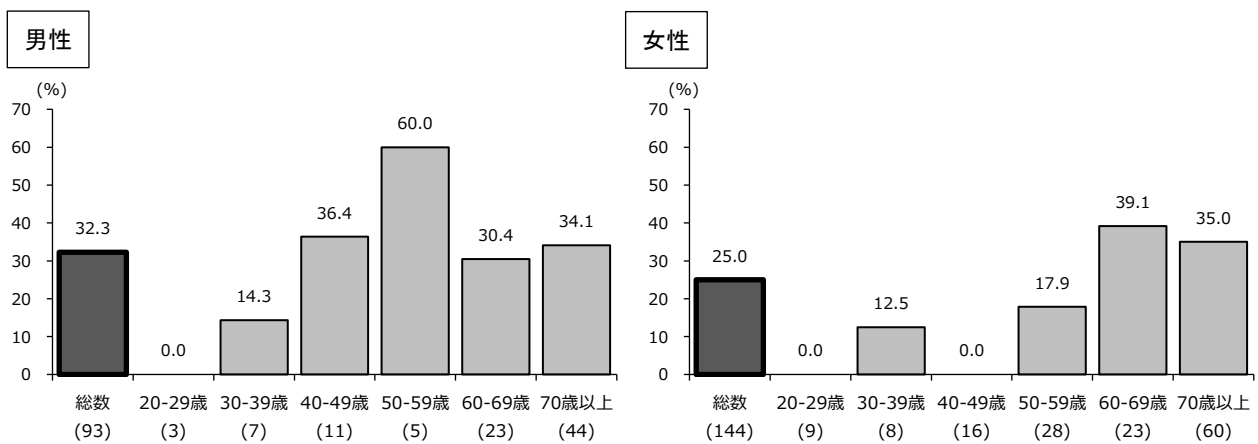


図1-13 収縮期（最高）血圧が140mmHg以上の者の割合（20歳以上、性・年齢階級別）



（参考）「健康いわて21プラン(第3次)」の目標
 収縮期血圧の平均値の低下（40～89歳）
 目標値：男性 132 mmHg 女性 127 mmHg

4 身体活動・運動に関する状況

運動習慣のある者の割合は、男性 29.8%、女性 29.3%である。
 歩数の平均値は、男性 6,791 歩、女性 5,940 歩である。

図 1-14 運動習慣のある者の割合（20 歳以上、性・年齢階級別）

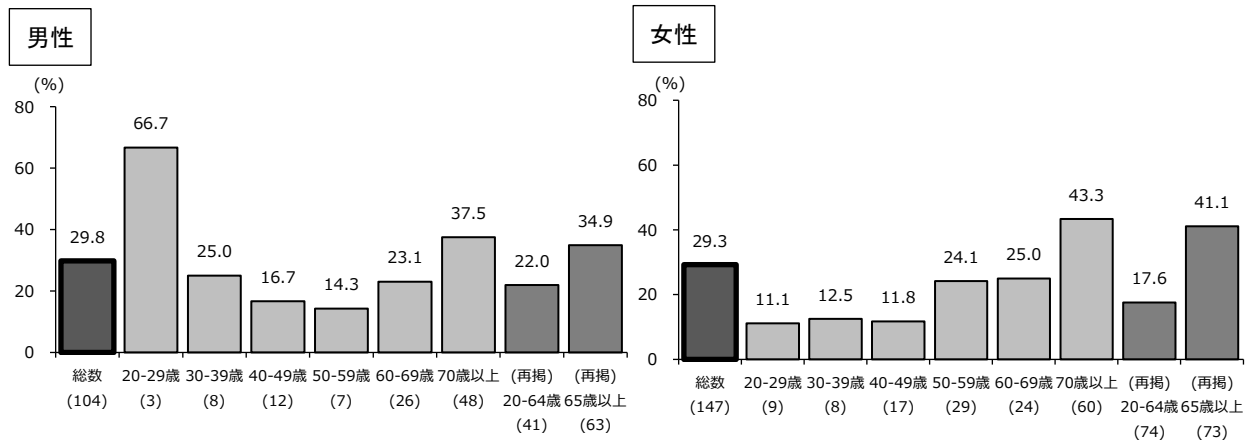
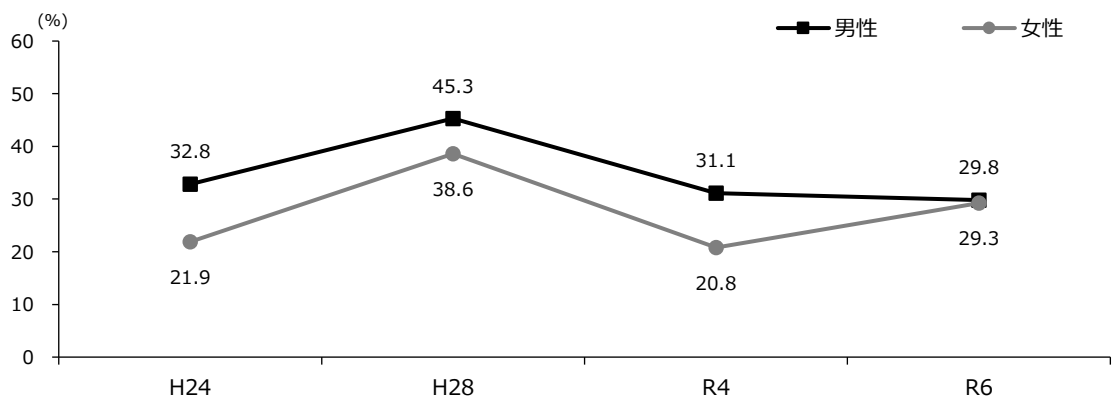


図 1-15 運動習慣のある者の割合の年次推移（20 歳以上）



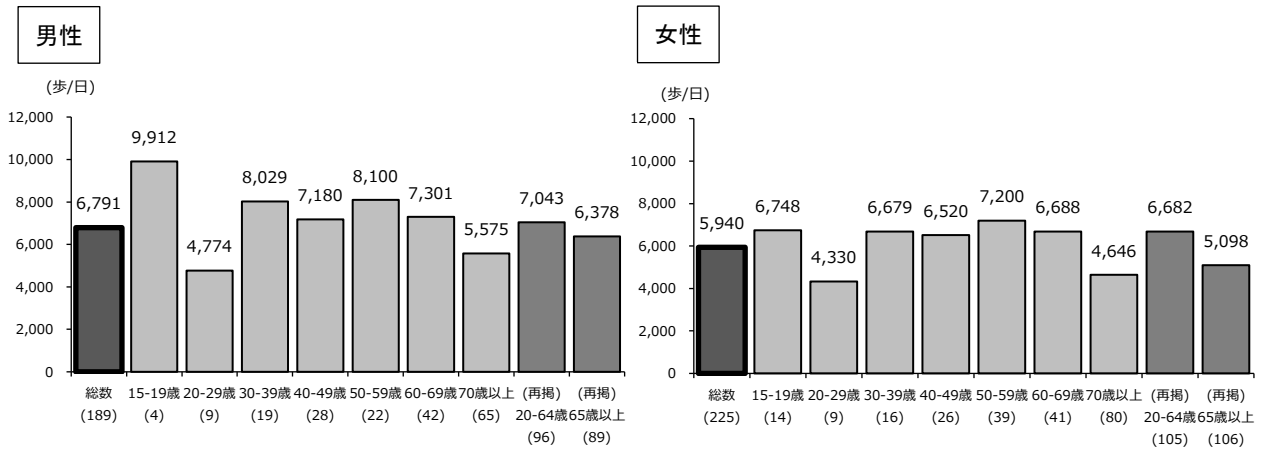
※「運動習慣のある者」とは、1回 30分以上の運動を週 2回以上実施し、1年間以上継続している者。

(参考)「健康いわて 21 プラン(第3次)」の目標

運動習慣者の割合の増加

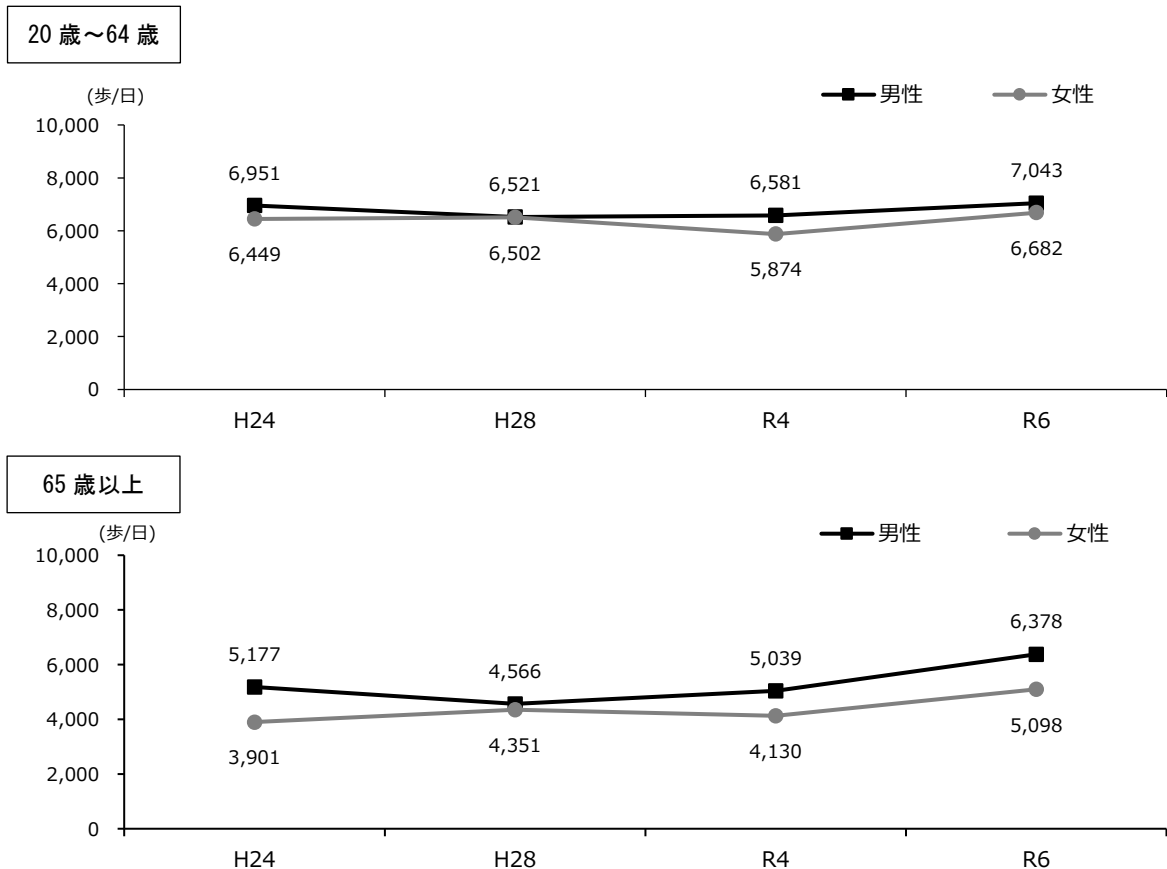
目標値:	男性	女性	総数
20 歳～64 歳	37.0%	26.0%	31.0%
65 歳以上	48.0%	35.0%	42.0%

図1-16 歩数の平均値（15歳以上 性・年齢階級別）



※三次元加速度センサー式歩数計を使用。
 ※歩数計を1日装着していなかった者、100歩未満又は5万歩以上の者は除く。

図1-17 歩数の平均値の年次推移（年齢区分・性別）



※令和4年度調査までは振り子式歩数計、令和6年度調査は三次元加速度センサー式歩数計を使用。

(参考)「健康いわて21プラン(第3次)」の目標
 日常生活における歩数の増加
 目標値：

	男性	女性
20歳～64歳	8,000歩	7,000歩
65歳以上	6,000歩	5,000歩

第2 歯科疾患実態調査口腔診査

1 歯の状況

(1) 現在歯数の状況

自分が有する歯数の割合を示したものを図2-1及び図2-2に示す(14歳以上)。

40歳代から喪失歯を有する者が増え始め、60歳代の約4割が19本以下の現在歯数となっている。

また、無歯顎(現在歯0本)の者は、50歳代から増加している(50歳代 3.3%、60歳代 4.7%、70歳代 8.5%、80歳代 16.7%)。

8020者率(75~84歳で歯が20本を有する者の割合)は32.7%であった。

図2-1 現在歯数

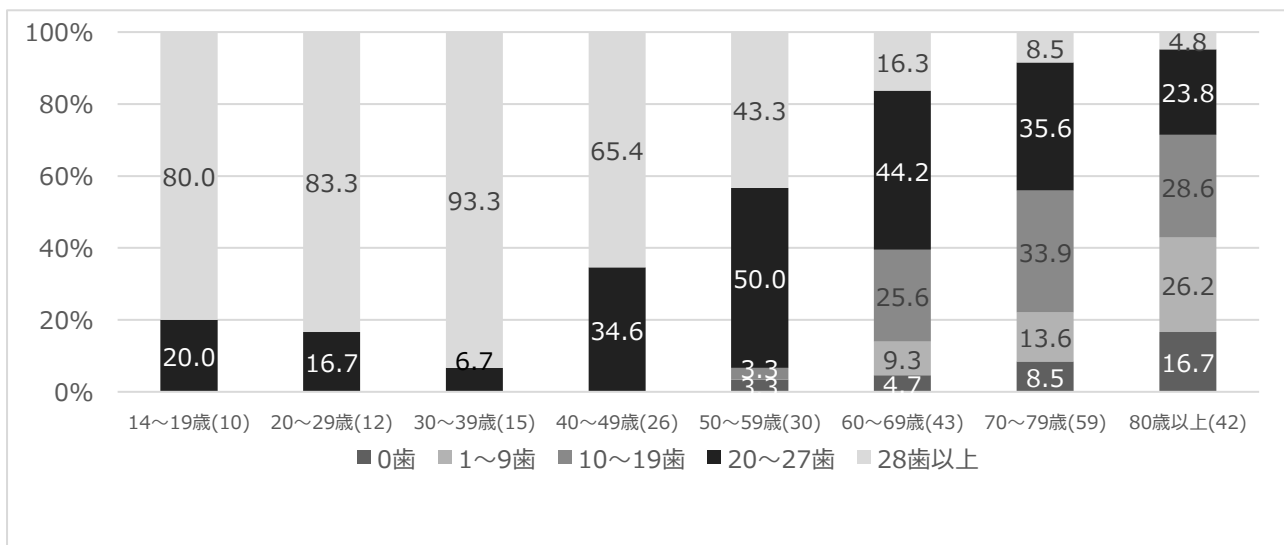
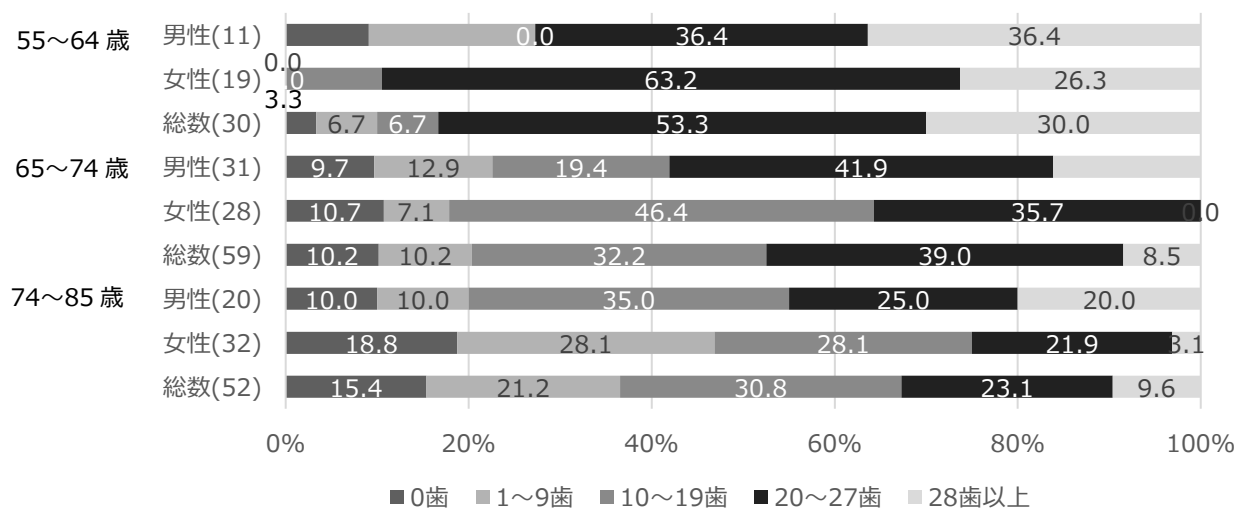


図2-2 現在歯数(再掲)



(参考)「健康いわて21プラン(第3次)」*「イー歯トープ8020プラン(第2次)」の目標

40・50歳代で自分の歯が19歯以下の者の割合の減少 5.0%

60歳前後(55~64歳)で24歯以上の自分の歯を持つ者の割合の増加 70.0%

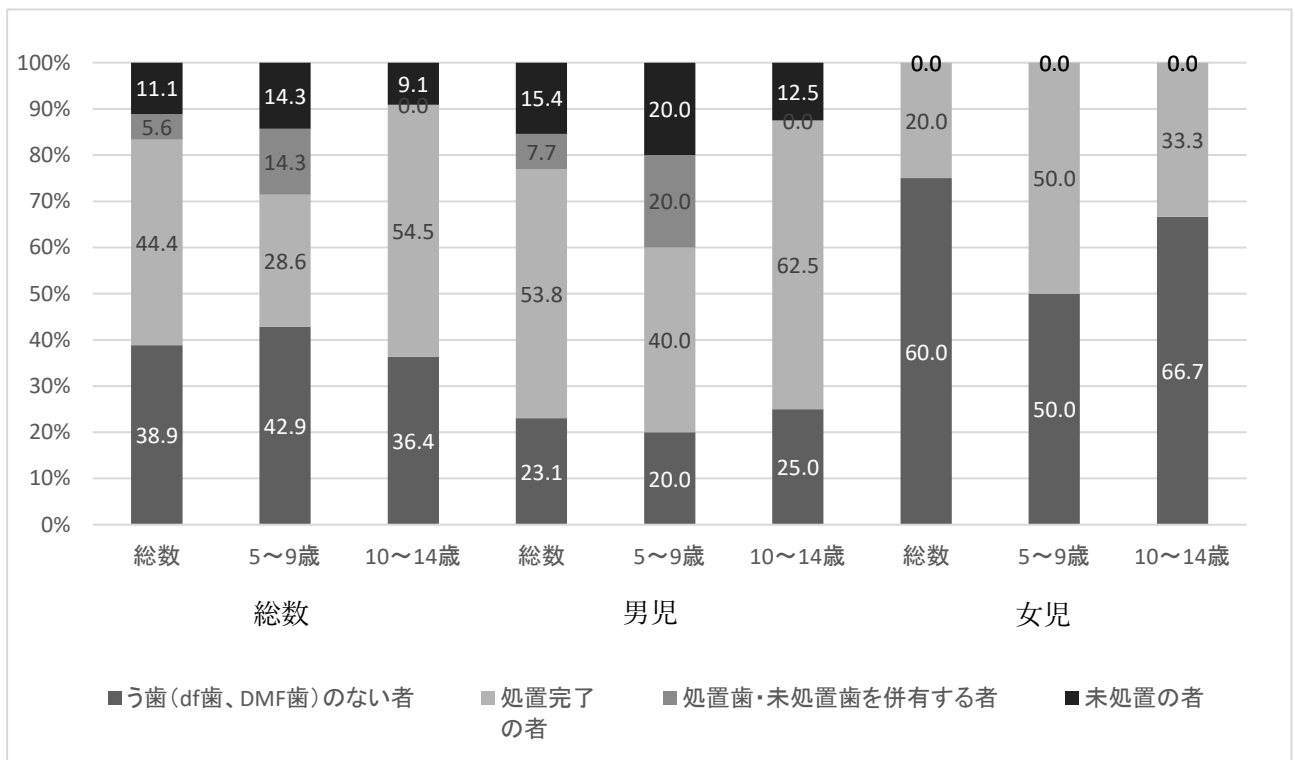
80歳前後(75~84歳)で20歯以上の自分の歯を持つ者の割合の増加 60.0%

(2) むし歯の状況

① 子どものむし歯の状況

子どものむし歯罹患状況を図2-3に示す(5~14歳)。
 全体の約4割が乳歯・永久歯ともむし歯がなかった一方、その割合は女兒が約6割に対し、男児は約2割と、男児の方がむし歯の罹患率が高かった。
 また女兒には未処置のむし歯を持つ者がいなかったが、男児には未処置のむし歯を持つ者(11.1%)が多かった。

図2-3 むし歯の状況(5~14歳 乳歯・永久歯)



② 成人のむし歯の状況

成人のむし歯の状況を図 2-4 及び 2-5 に示す。

全体の 90.5%が永久歯のむし歯を有しており、20 歳代から増加傾向にあった。

また、未処置のむし歯がある者は、20 歳～50 歳代で 43.4%、60 歳代で 44.2%であった。

図 2-4 むし歯のある者の割合（永久歯）

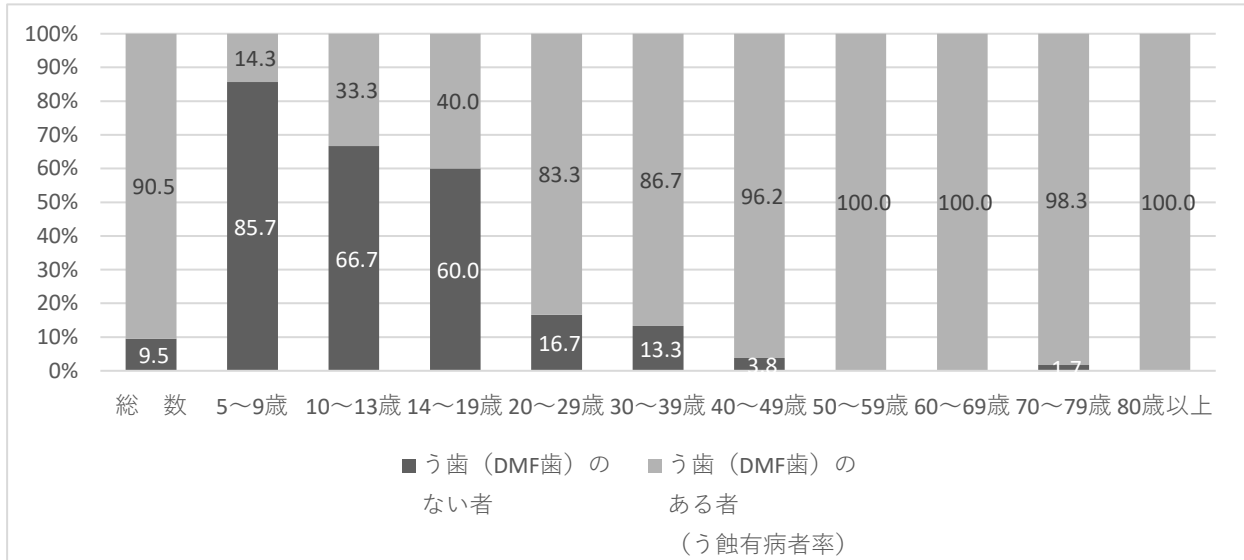
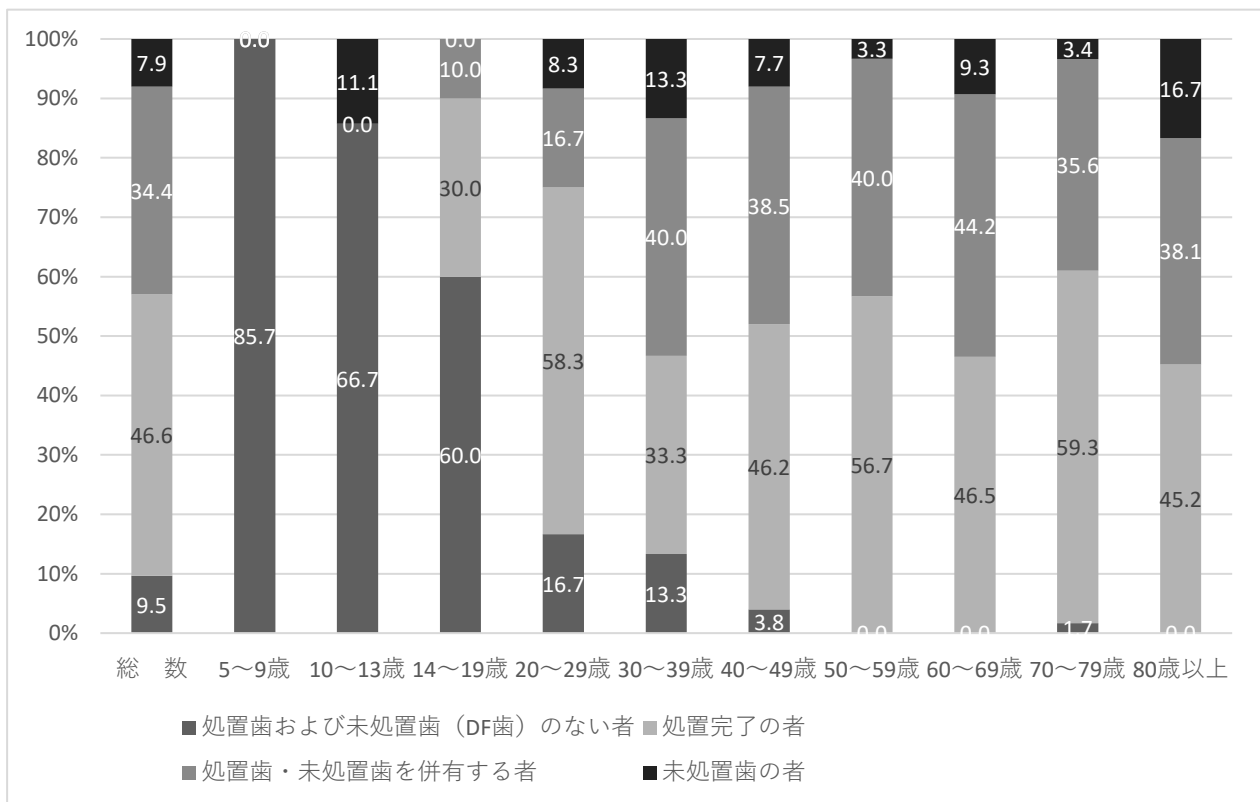


図 2-5 むし歯の処置状況



(参考) 「イー歯トープ8020プラン (第2次)」の目標

20 歳代～50 歳代における未処置のむし歯がある者の割合の減少 20.0%

60 歳代で未処置のむし歯を有する者の割合の減少 15.0%

2 歯周組織の状況

(1) 歯周ポケットの状況

14歳以上の歯周ポケット検査の結果を図2-6から図2-8に示す。

全体の約6割が4mm以上の歯周ポケットを有しており、6mm以上の深い歯周ポケットを有する者は30歳代から増加していた。

健全（歯周ポケット3mm以下）者は、男性22.3%、女性37.8%と、女性の方が高い傾向にあった。

また、40・50歳代で進行した歯周炎（4mm以上の歯周ポケット）を有する者の割合は、55.4%であった。

図2-6 歯周ポケットを有する者の割合

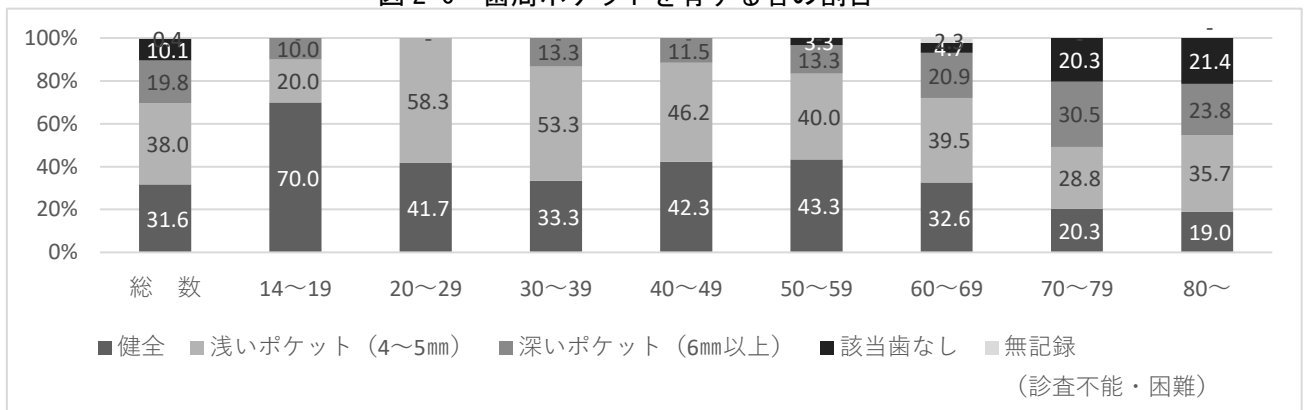


図2-7 歯周ポケットを有する者の割合（男性）

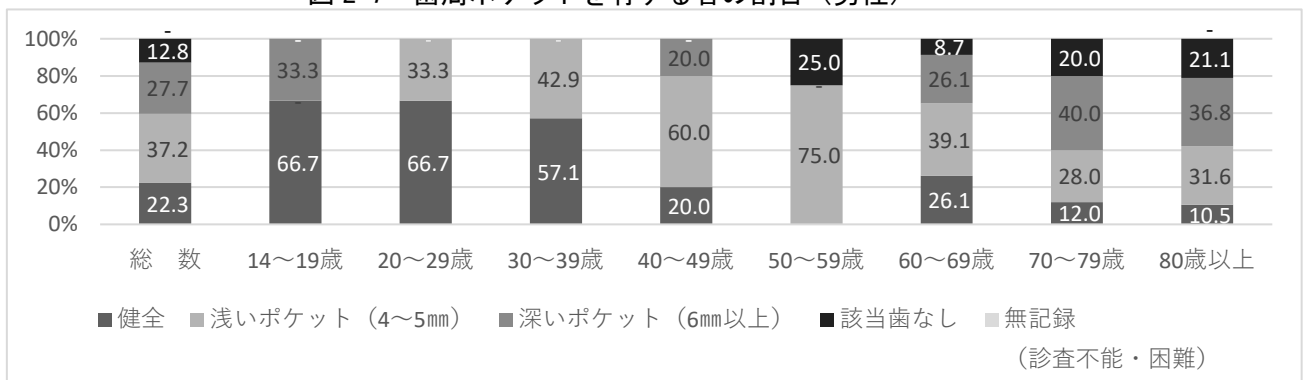
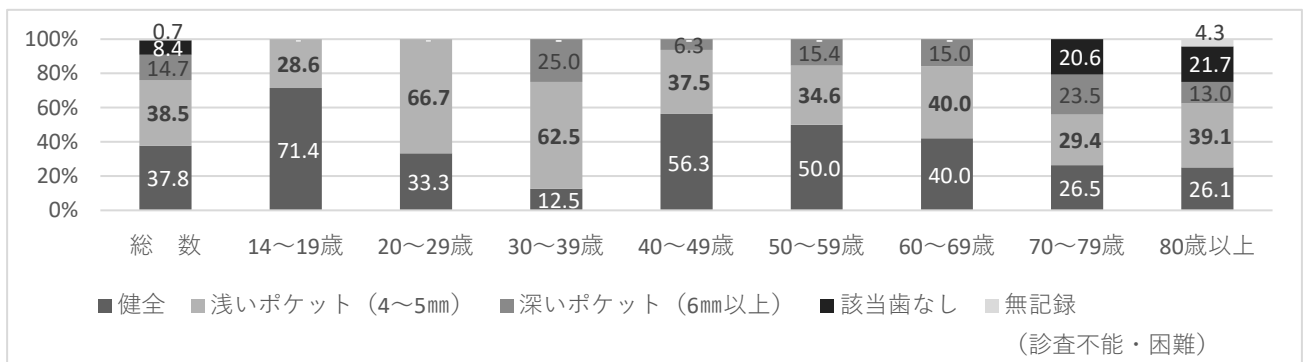


図2-8 歯周ポケットを有する者の割合（女性）



(参考)「健康いわて21プラン(第3次)」・「イー歯トープ8020プラン(第2次)」の目標
40歳・50歳代で進行した歯周炎がある者の割合の減少 40.0%

(2) 歯肉出血の状況

プロービング検査時の出血状況を図2-9から2-11までに示す。

参加者全体では、約半数がプロービング時の出血がなかったが、男女別では男性の40歳代の6割、女性の30歳代の6割がプロービング時に出血がみられた。

また、20・30歳代でプロービング時に出血（歯肉に炎症所見）がある者は48.1%であった。

図2-9 歯肉出血の有無

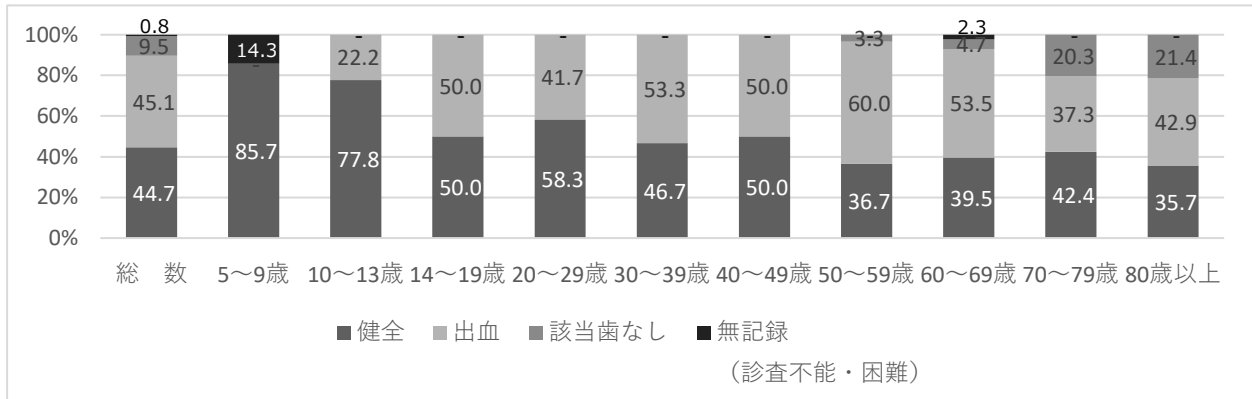


図2-10 歯肉出血の有無（男性）

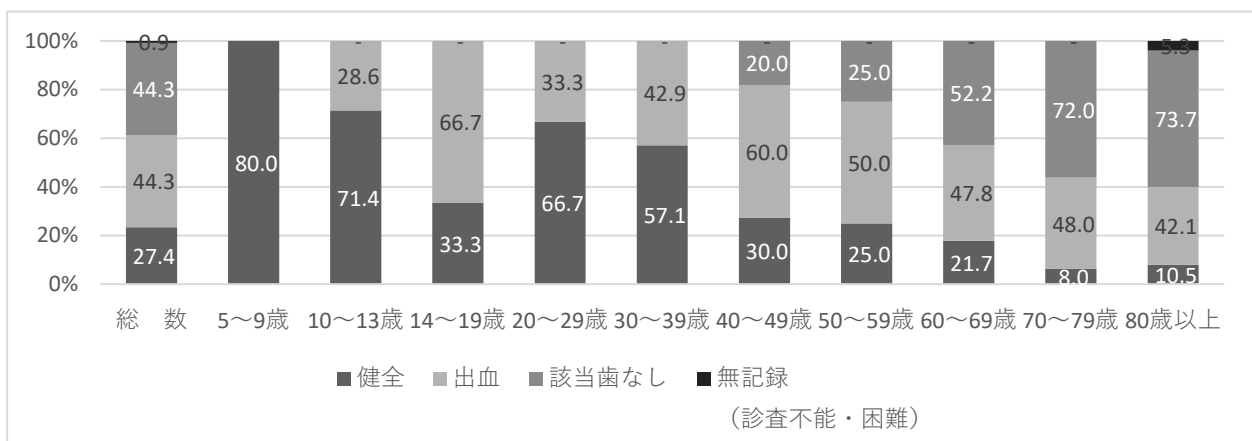
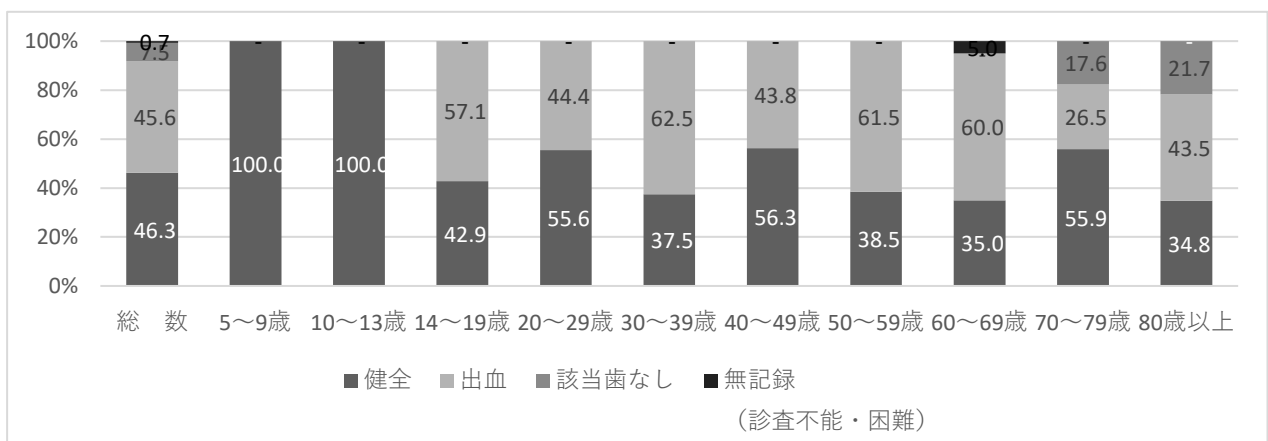


図2-11 歯肉出血の有無（女性）



(参考) 「イー歯トープ8020プラン（第2次）」の目標

20歳・30歳代で歯肉に炎症所見がある者の割合の減少

50.0%

第3 栄養摂取状況調査

1 食塩摂取量の状況

食塩摂取量の平均値は10.3gであり、男性10.9g、女性9.8gである。年齢階級別にみると、男女ともに50歳代が最も高い。男女ともに年齢調整した、食塩摂取量の平均値の年次推移は、平成21年度以降、男女ともに有意な増減はみられない。

食塩摂取量が1日7.0g未満の者の割合は、男性15.9%、女性19.4%である。

図3-1 食塩摂取量の平均値（20歳以上、性・年齢階級別）

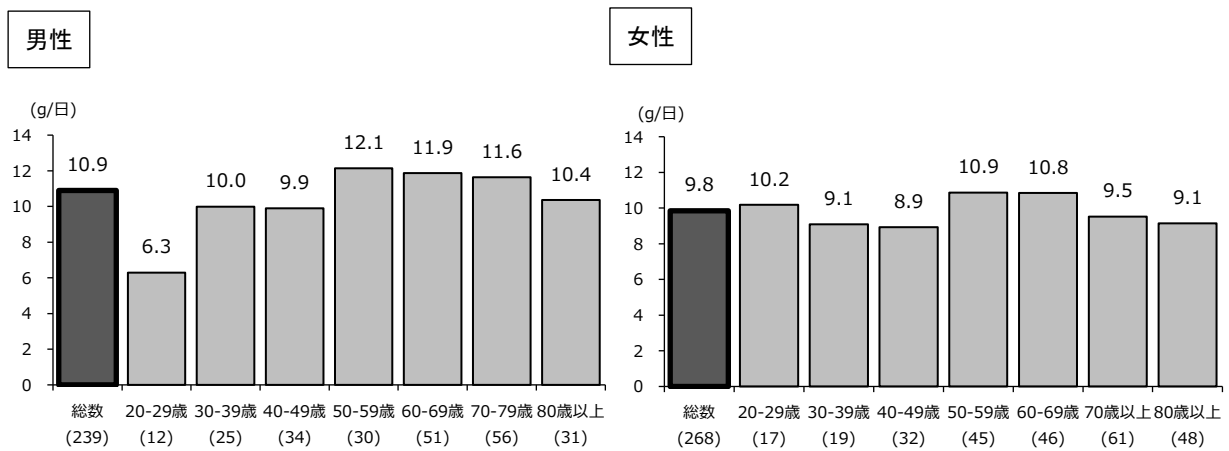


図3-2 食塩摂取量の平均値の年次推移（20歳以上、性別）

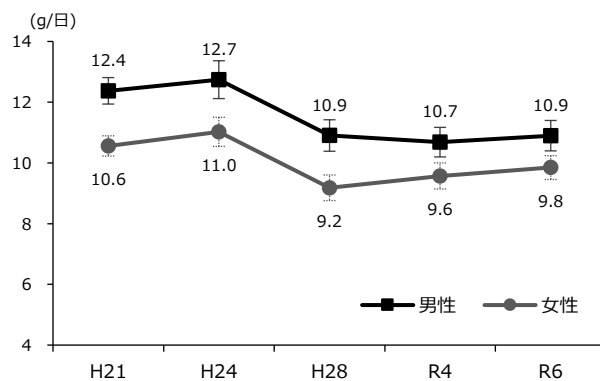
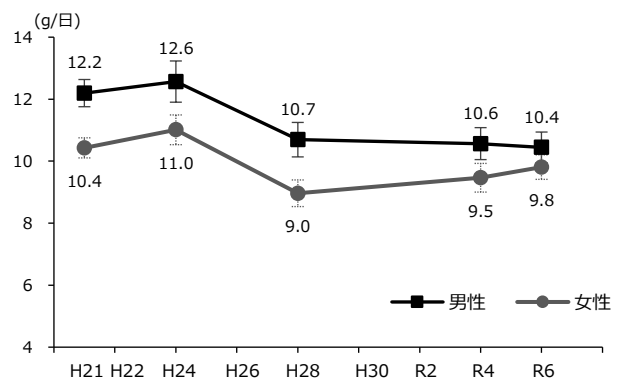


図3-3 年齢調整した、食塩摂取量の平均値の年次推移（20歳以上、性別）



※誤差線は、95%信頼区間を示す。

※年齢調整値は、令和2年国勢調査による基準人口（20-29歳、30-39歳、40-49歳、50-59歳、60-69歳、70-79歳、80歳以上の7区分）を用いて算出した。

（参考）「健康いわて21プラン(第3次)」の目標
 適切な量と質の食事をとる者の増加
 目標値：食塩摂取量の平均値 7.0g 未満

図3-4 食塩摂取量が7.0g未満の者の割合（20歳以上、性・年齢階級別）

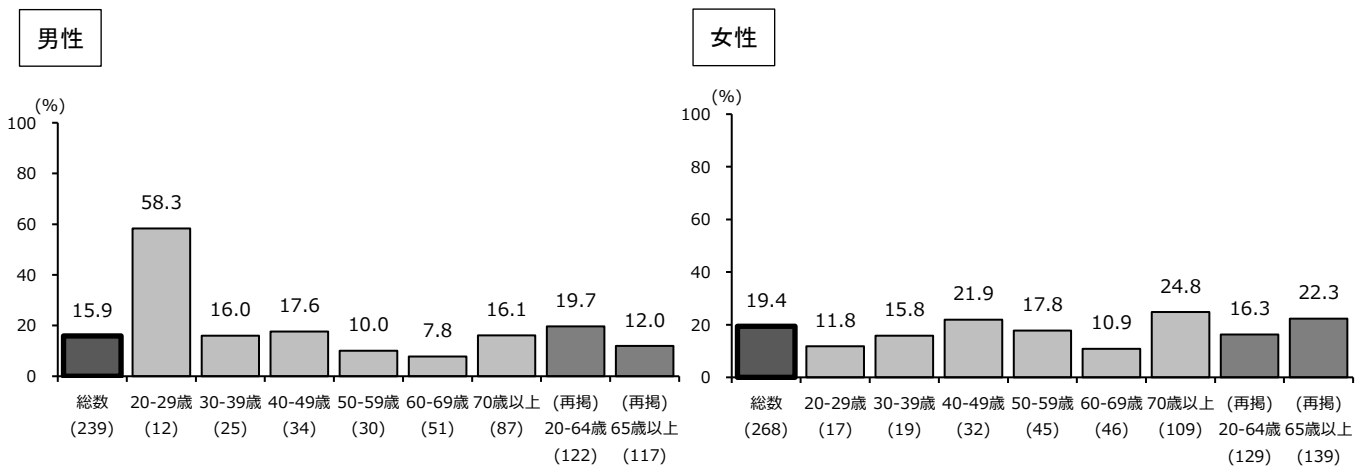
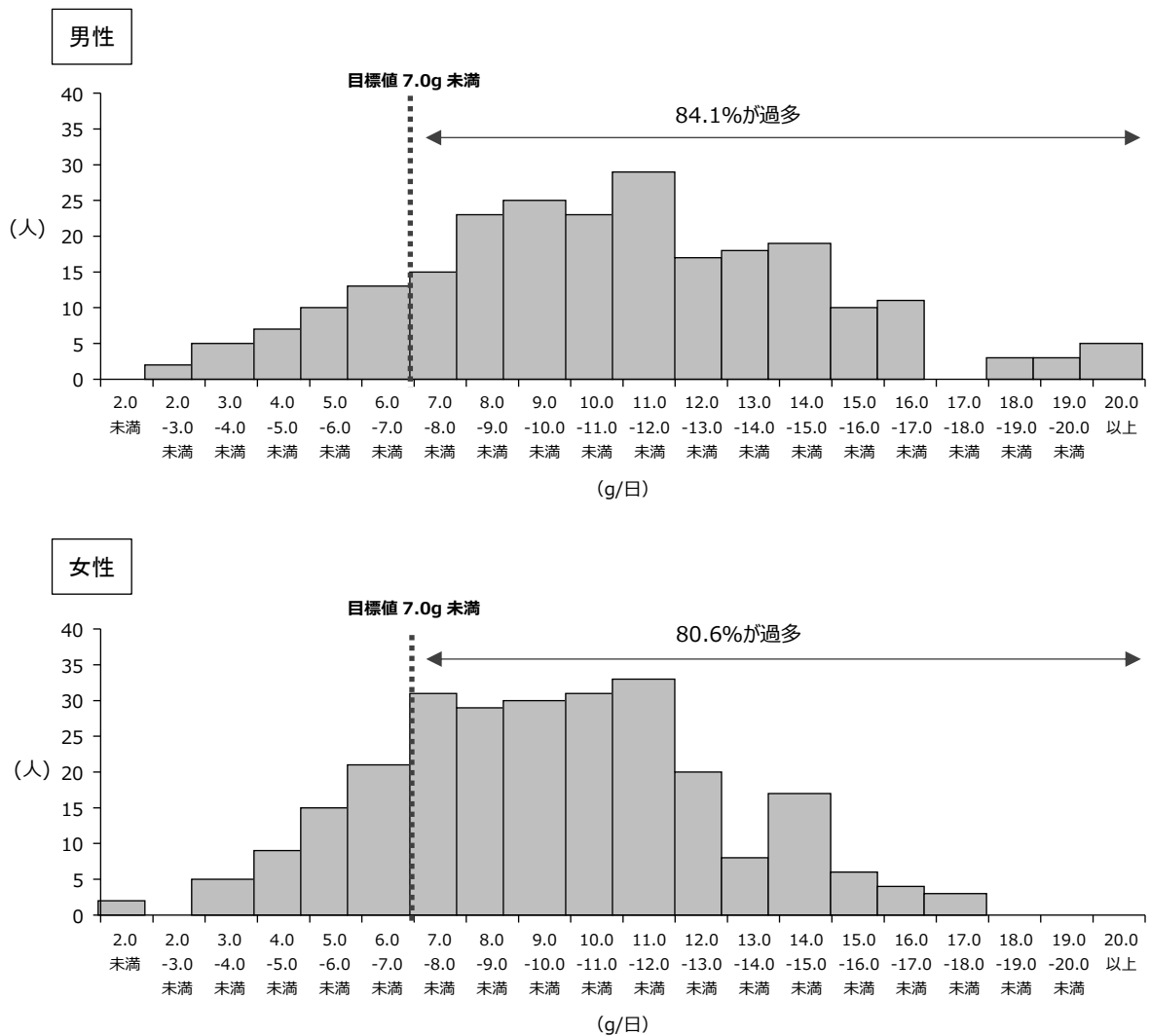


図3-5 食塩摂取量の分布（20歳以上、性別）



2 野菜摂取量の状況

野菜摂取量の平均値は257.8gであり、男性262.8g、女性253.2gである。年齢調整した、野菜摂取量の平均値の年次推移は、平成21年度以降、男女ともに有意に減少している。

野菜摂取量が1日350g以上の割合は、男性24.3%、女性20.1%である。年齢階級別にみると、その割合は、男性は60歳代、女性は20歳代が最も高い。

図3-6 野菜摂取量の平均値（20歳以上、性・年齢階級別）

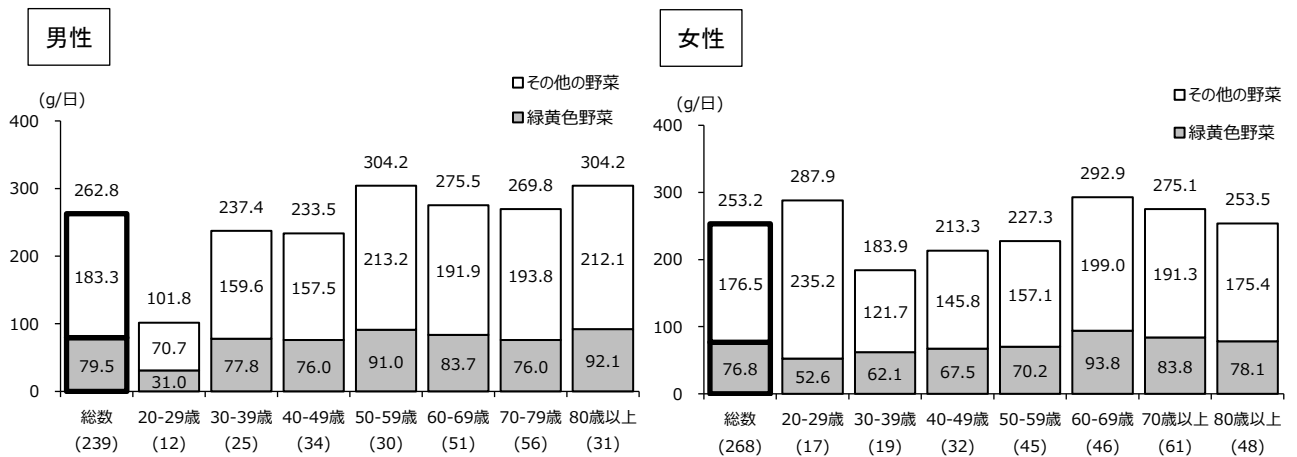


図3-7 野菜摂取量の平均値の年次推移（20歳以上、性別）

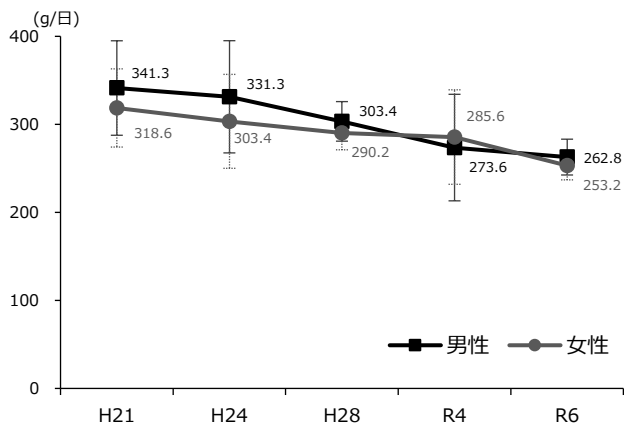
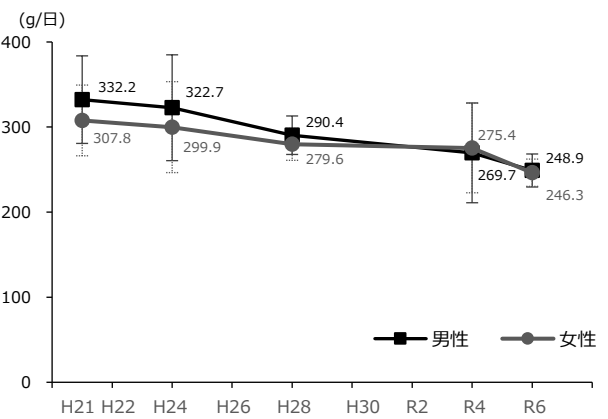


図3-8 年齢調整した、野菜摂取量の平均値の年次推移（20歳以上、性別）



※誤差線は、95%信頼区間を示す。

※年齢調整値は、令和2年国勢調査による基準人口（20-29歳、30-39歳、40-49歳、50-59歳、60-69歳、70-79歳、80歳以上の7区分）を用いて算出した。

（参考）「健康いわて21プラン(第3次)」の目標
適切な量と質の食事をする者の増加
目標値：野菜摂取量の平均値 350g以上

図 3-9 野菜摂取量が 350 g 以上の者の割合 (20 歳以上、性・年齢階級別)

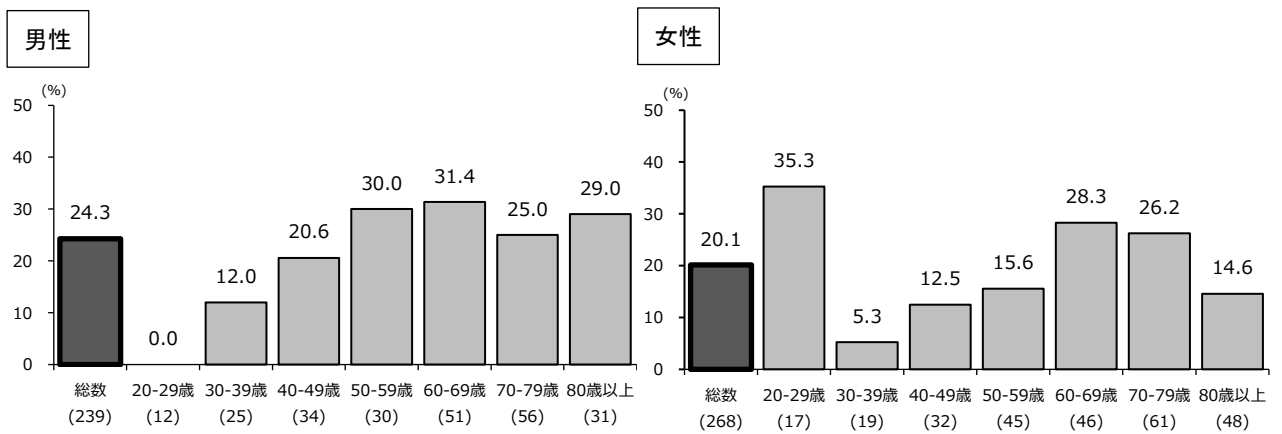
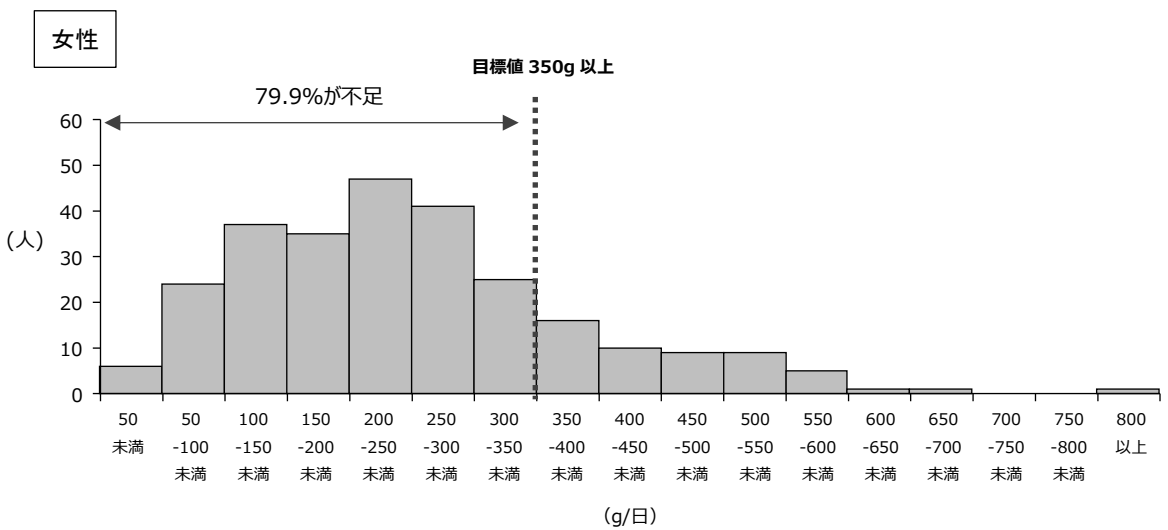
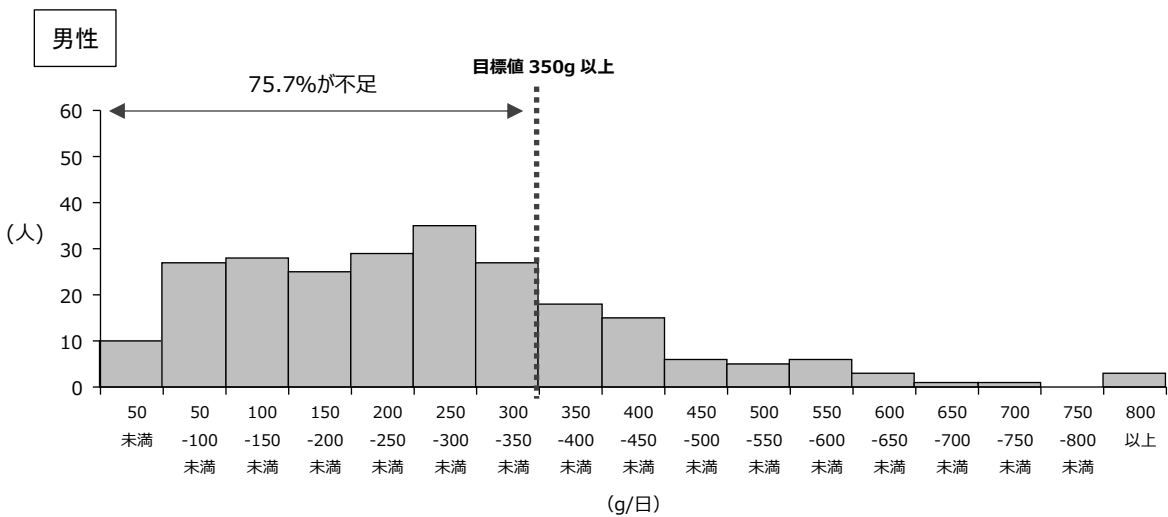


図 3-10 野菜摂取量の分布 (20 歳以上、性別)



3 果物摂取量の状況

果物摂取量の平均値は86.2gであり、男性77.3g、女性94.1gである。年齢調整した、果物摂取量の平均値の年次推移は、平成21年度以降、男性では有意な増減はみられないのに対し、女性では有意に減少している。

果物摂取量が1日200g以上の割合は16.8%であり、男性15.5%、女性17.9%である。年齢階級別にみると、男性は80歳以上、女性は70歳代が最も高い。

図3-11 果物摂取量の平均値（20歳以上、性・年齢階級別）

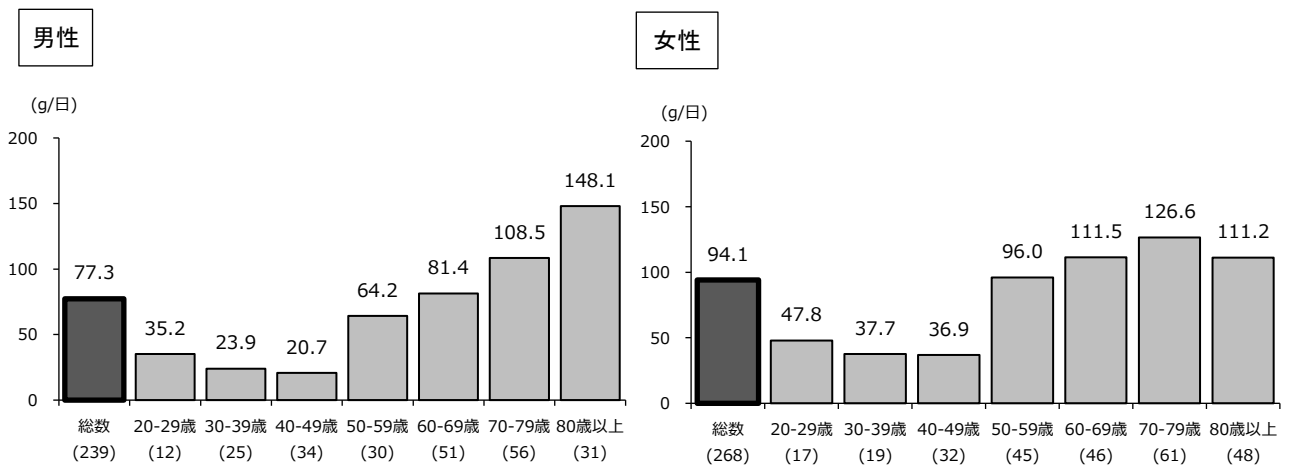


図3-12 果物摂取量の平均値の年次推移（20歳以上、性別）

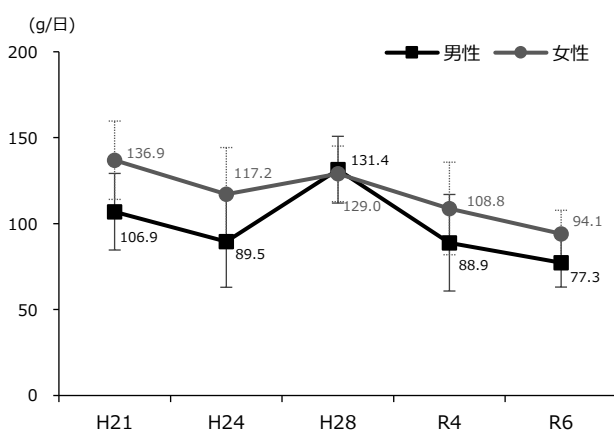
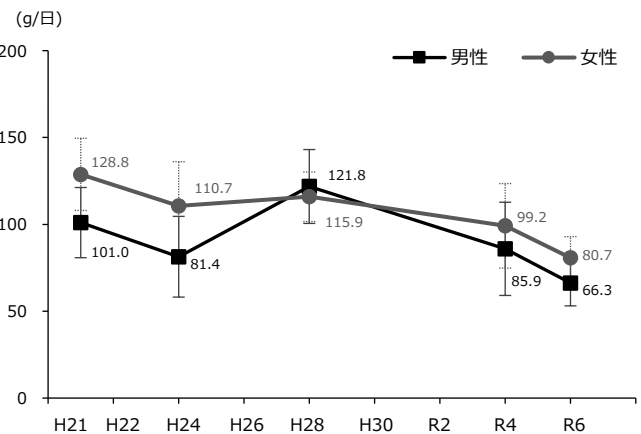


図3-13 年齢調整した、果物摂取量の平均値の年次推移（20歳以上、性別）



※誤差線は、95%信頼区間を示す。

※年齢調整値は、令和2年国勢調査による基準人口（20-29歳、30-39歳、40-49歳、50-59歳、60-69歳、70-79歳、80歳以上の7区分）を用いて算出した。

(参考)「健康いわた21プラン(第3次)」の目標
適切な量と質の食事をする者の増加
目標値：果物摂取量の平均値 200g

図3-14 果物摂取量が200g以上の者の割合（20歳以上、性・年齢階級別）

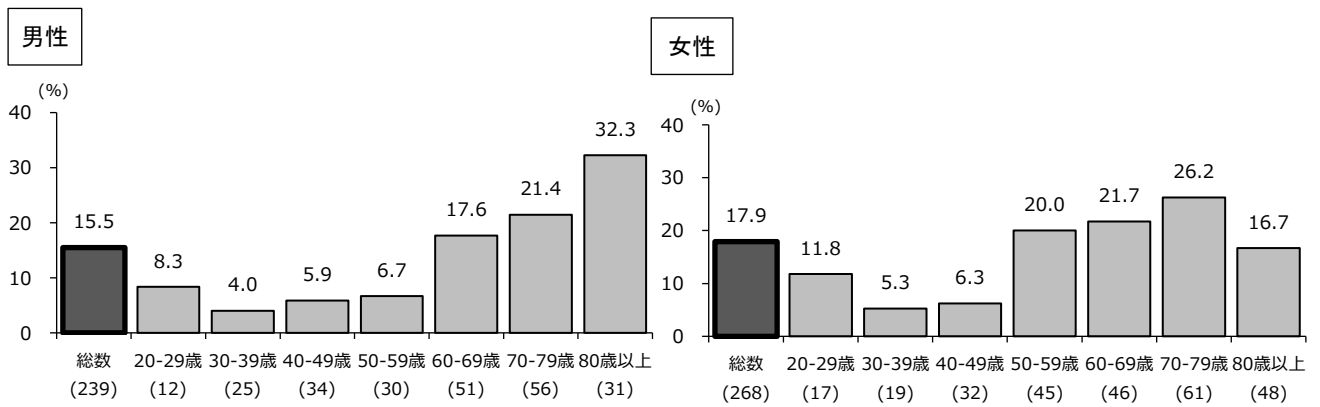
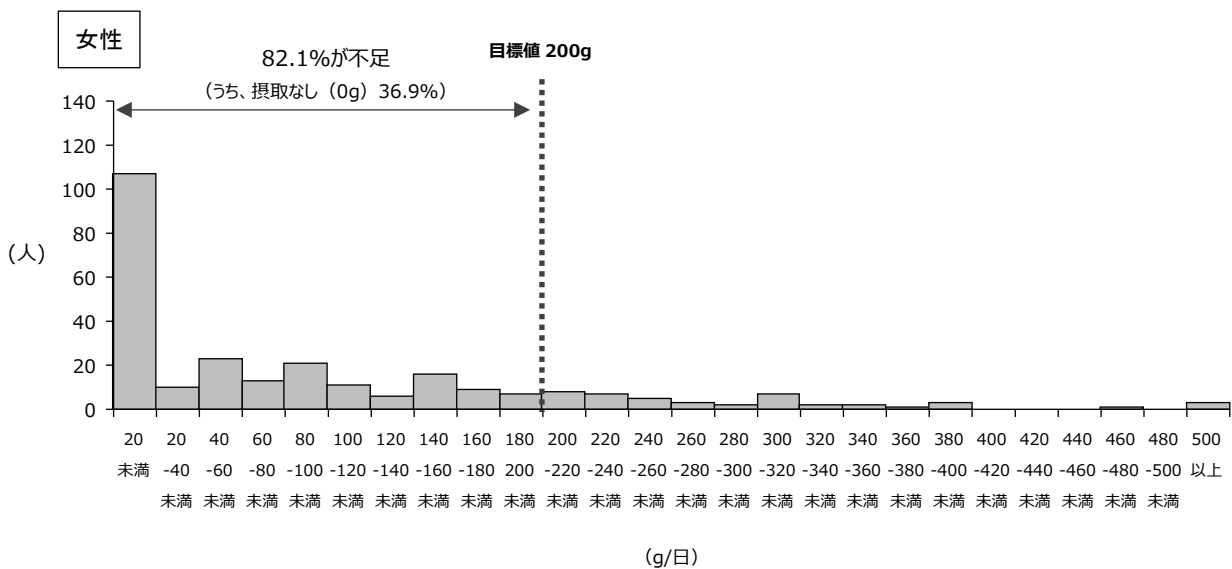
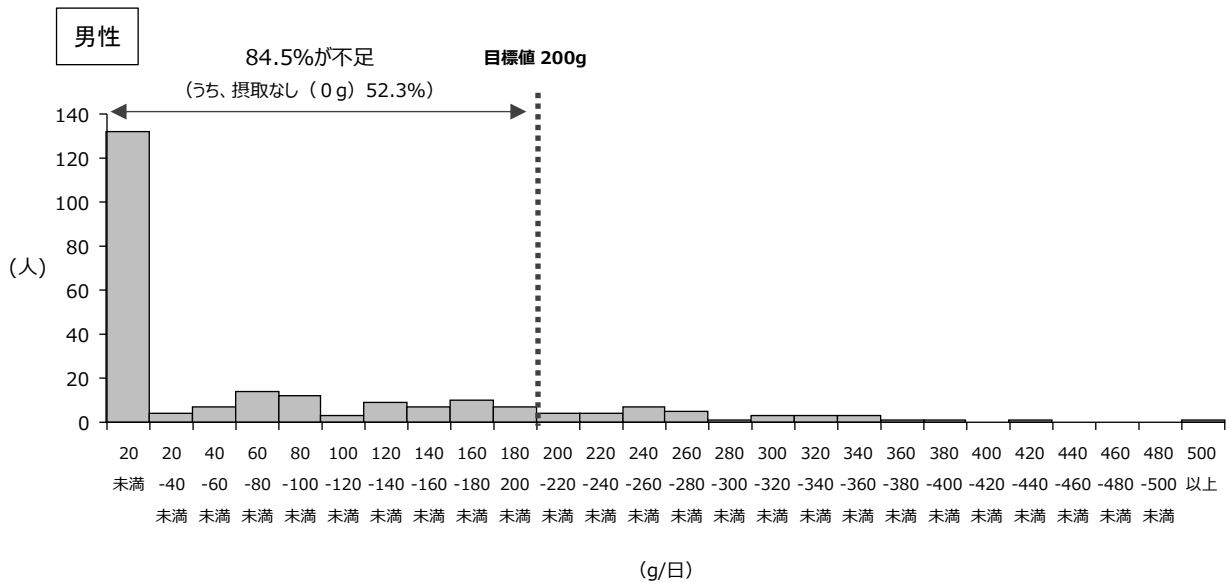


図3-15 果物摂取量の分布（20歳以上、性別）



4 カリウム摂取量の状況

カリウム摂取量の平均値は2,268 mgであり、男性2,344 mg、女性2,200 mgである。年齢調整した、カリウム摂取量の平均値の年次推移は、平成21年度以降、男女ともに有意に減少している。

図3-16 カリウム摂取量の平均値（20歳以上、性・年齢階級別）

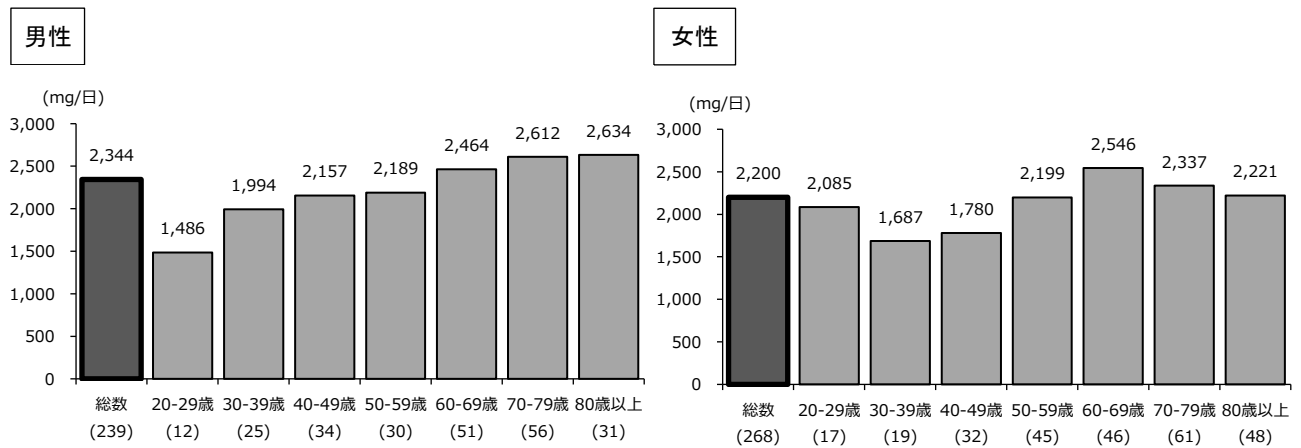


図3-17 カリウム摂取量の平均値の年次推移（20歳以上、性別）

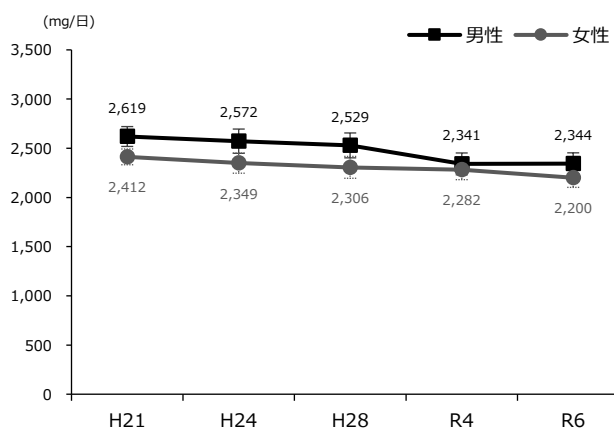
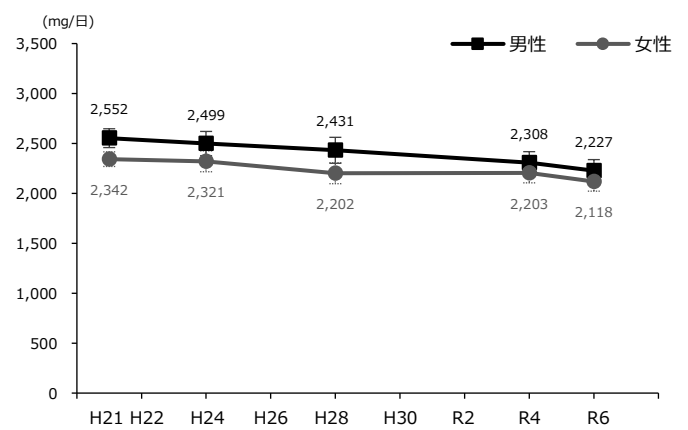


図3-18 年齢調整した、カリウム摂取量の平均値の年次推移（20歳以上、性別）



※誤差線は、95%信頼区間を示す。

※年齢調整値は、令和2年国勢調査による基準人口（20-29歳、30-39歳、40-49歳、50-59歳、60-69歳、70-79歳、80歳以上の7区分）を用いて算出した。

第4 県民生活習慣状況調査

1 食生活状況について

(1) 栄養バランスのとれた食事に関する状況

主食・主菜・副菜を組み合わせた食事を毎日1日2回以上摂っている20歳以上の割合は51.8%であり、男性48.9%、女性54.4%である。

年齢階級別にみると、男性は15～19歳、女性は70歳以上でその割合が高い。

図4-1 主食・主菜・副菜を組み合わせた食事が1日2回以上の頻度（20歳以上、性別）

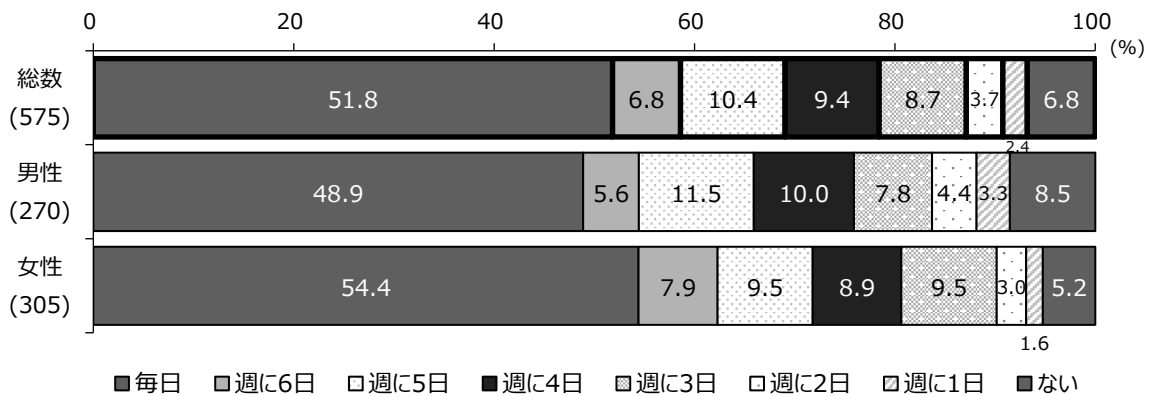
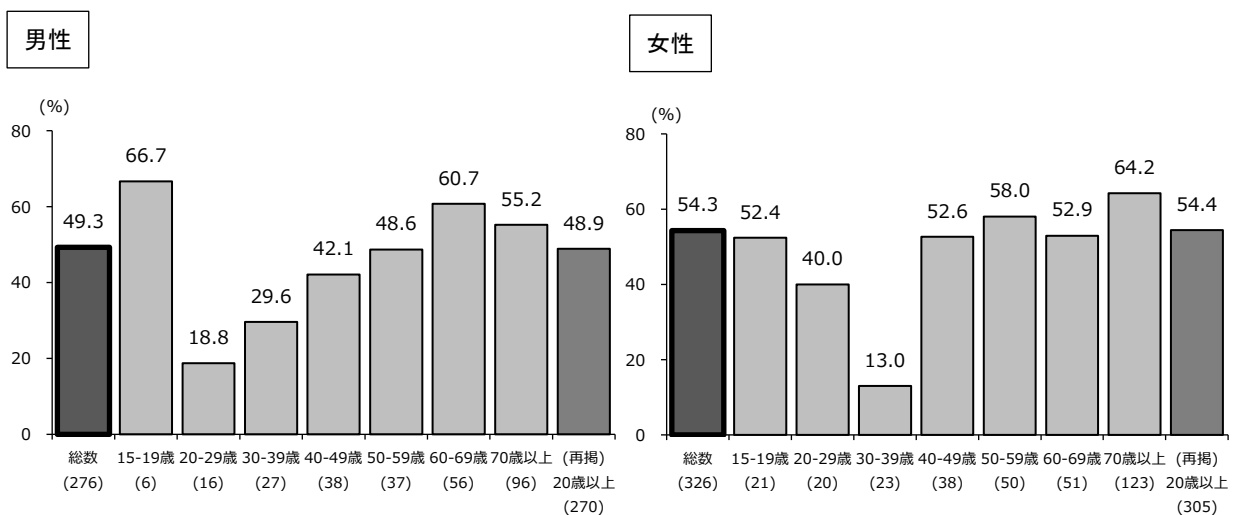


図4-2 主食・主菜・副菜を組み合わせた食事を毎日1日2回以上摂っている者の割合（15歳以上、性・年齢階級別）



(参考)「健康いわて21プラン(第3次)」の目標

適切な量と質の食事をとる者の増加

目標値: 主食・主菜・副菜を組み合わせた食事が1日2回以上の日がほぼ毎日の者の割合 70.0%

(2) 共食に関する状況

毎日最低1食は家族や友人などと一緒に30分以上かけて食事をしている者の割合は54.0%であり、男性50.2%、女性57.2%である。
 年齢階級別にみると、男性は15～19歳、女性は40歳代でその割合が高い。

図4-3 家族や友人などと一緒にゆっくりと時間をかけて食事をしている者の状況（15歳以上、性別）

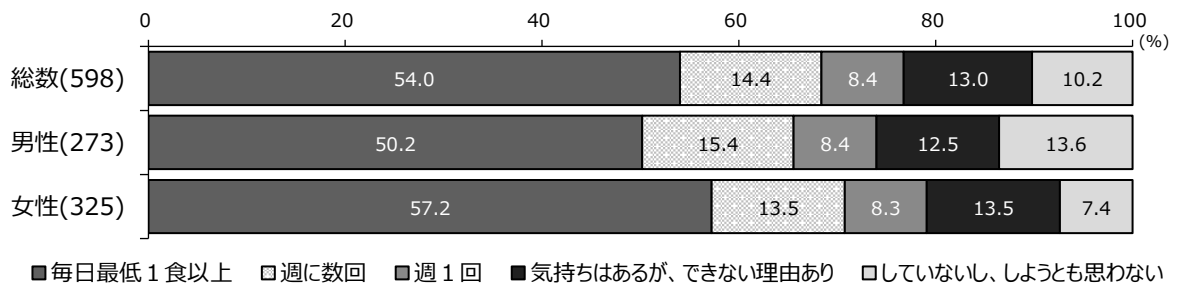


図4-4 毎日最低1食は家族や友人などと一緒に30分以上かけて食事をしている者の割合（15歳以上、性・年齢階級別）

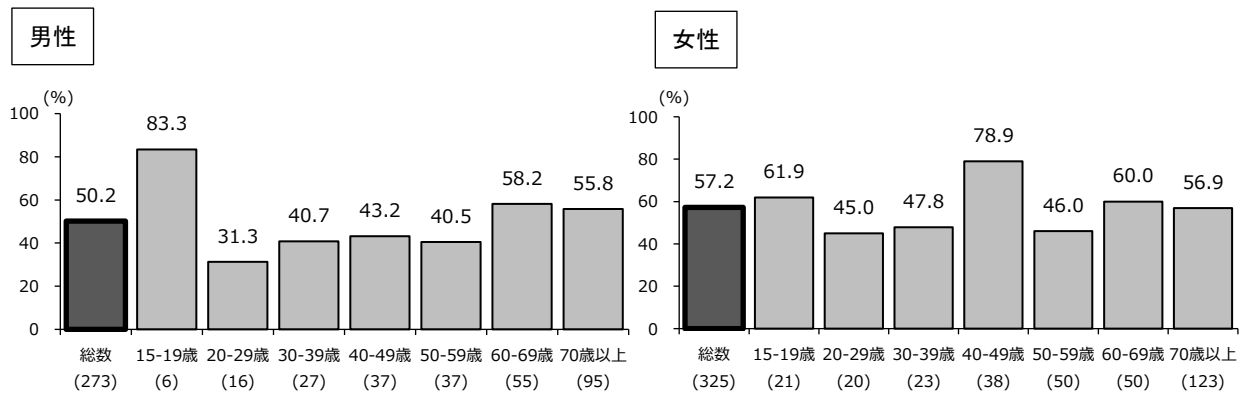
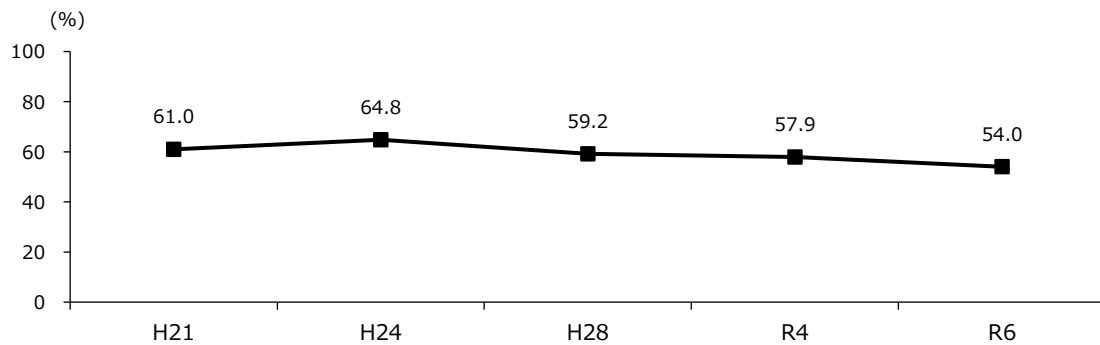


図4-5 毎日最低1食は家族や友人などと一緒に30分以上かけて食事をしている者の割合の年次推移（15歳以上、総数）



(参考)「健康いわて21プラン(第3次)」の目標
 地域等で共食している者の増加
 目標値：毎日最低1食は家族や友人などと一緒に30分以上かけて食事をしている者の割合 75.0%

2 喫煙・受動喫煙の状況について

(1) 喫煙に関する状況

現在、習慣的に喫煙している20歳以上の者の割合は16.7%であり、男性28.6%、女性6.0%である。なお、20歳未満で喫煙している者は男女ともにいなかった。

年齢調整した、その割合の平成21年度以降の年次推移は、男女ともに有意な増減はみられない。

図4-6 現在、習慣的に喫煙している者の割合（15歳以上、性・年齢階級別）

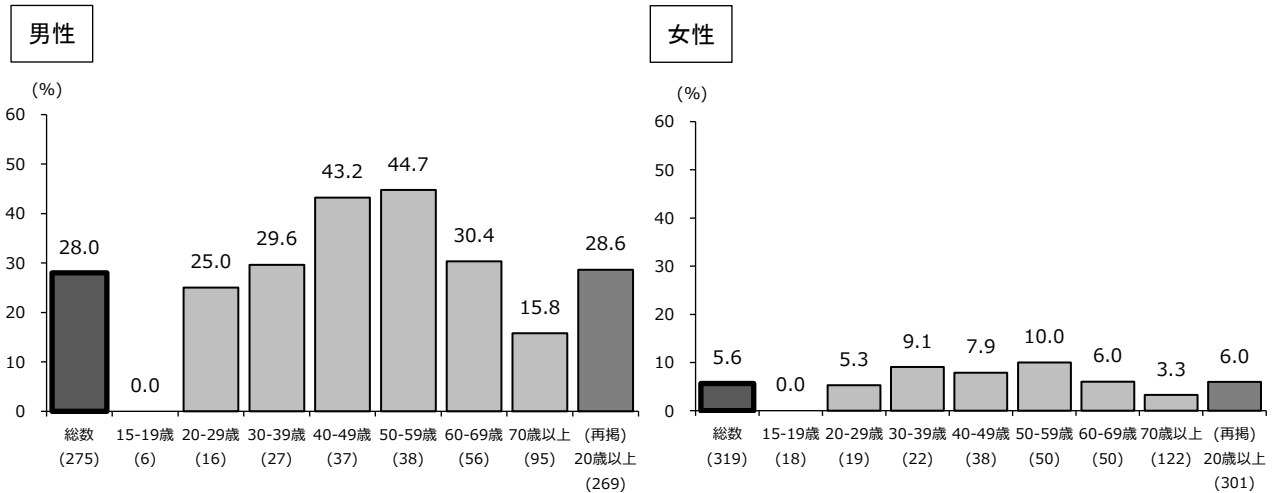


図4-7 現在、習慣的に喫煙している者の割合の年次推移（20歳以上、性別）

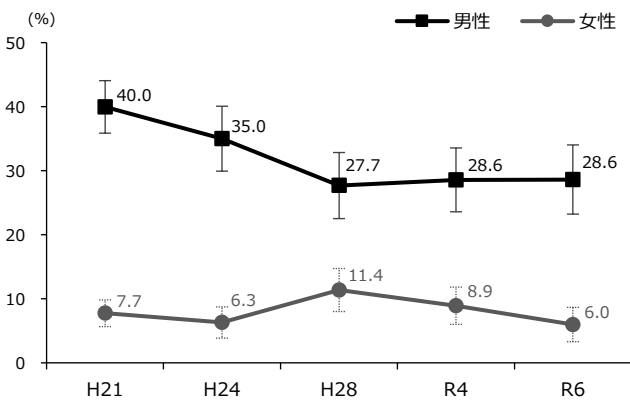
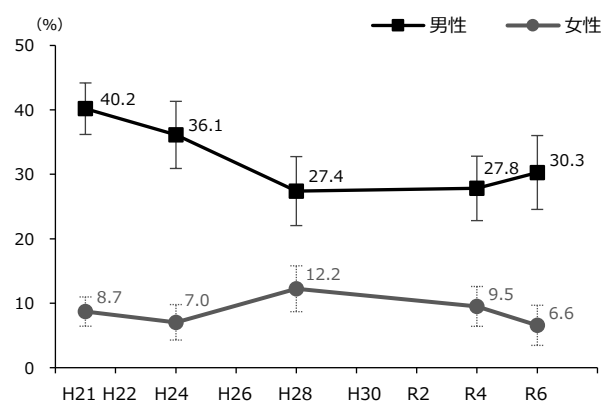


図4-8 年齢調整した、現在、習慣的に喫煙している者の割合の年次推移（20歳以上、性別）



※誤差線は、95%信頼区間を示す。

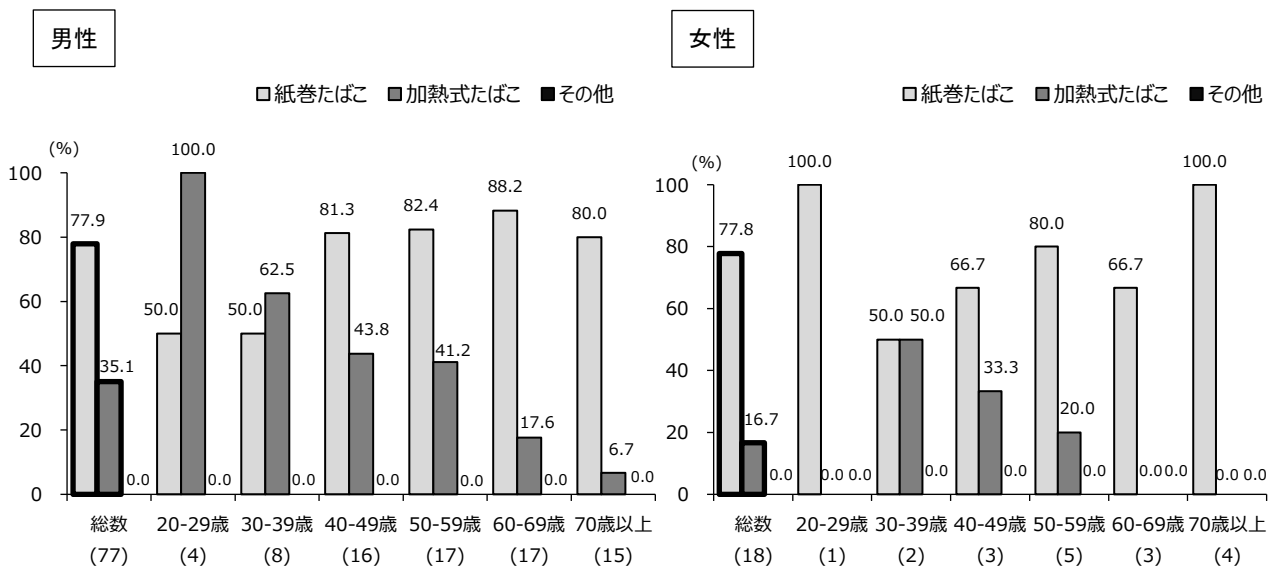
※年齢調整値は、令和2年国勢調査による基準人口（20-29歳、30-39歳、40-49歳、50-59歳、60-69歳、70歳以上の6区分）を用いて算出した。

(参考)「健康いわて21プラン(第3次)」の目標
20歳未満の者の喫煙をなくす
目標値：0.0%

現在、習慣的に喫煙している者が使用しているたばこの種類は、男女ともに紙巻たばこが多い。また、若い年代ほど加熱式たばこの割合が高かった。

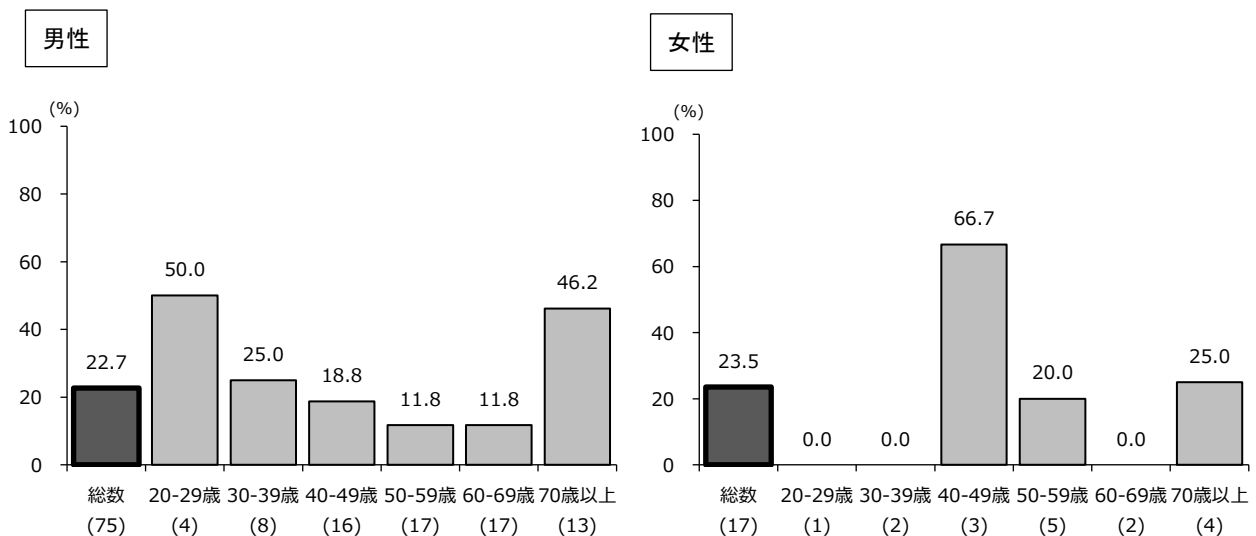
現在、習慣的に喫煙している者でたばこをやめたいと思う者の割合は、男性 22.7%、女性 23.5%である。

図 4-9 現在、習慣的に喫煙している者が使用しているたばこ製品の種類(複数回答)(20歳以上、性・年齢階級別)



※複数回答のため、内訳合計が100%にならない。

図 4-10 現在、習慣的に喫煙している者でたばこをやめたいと思う者の割合(20歳以上、性・年齢階級別)

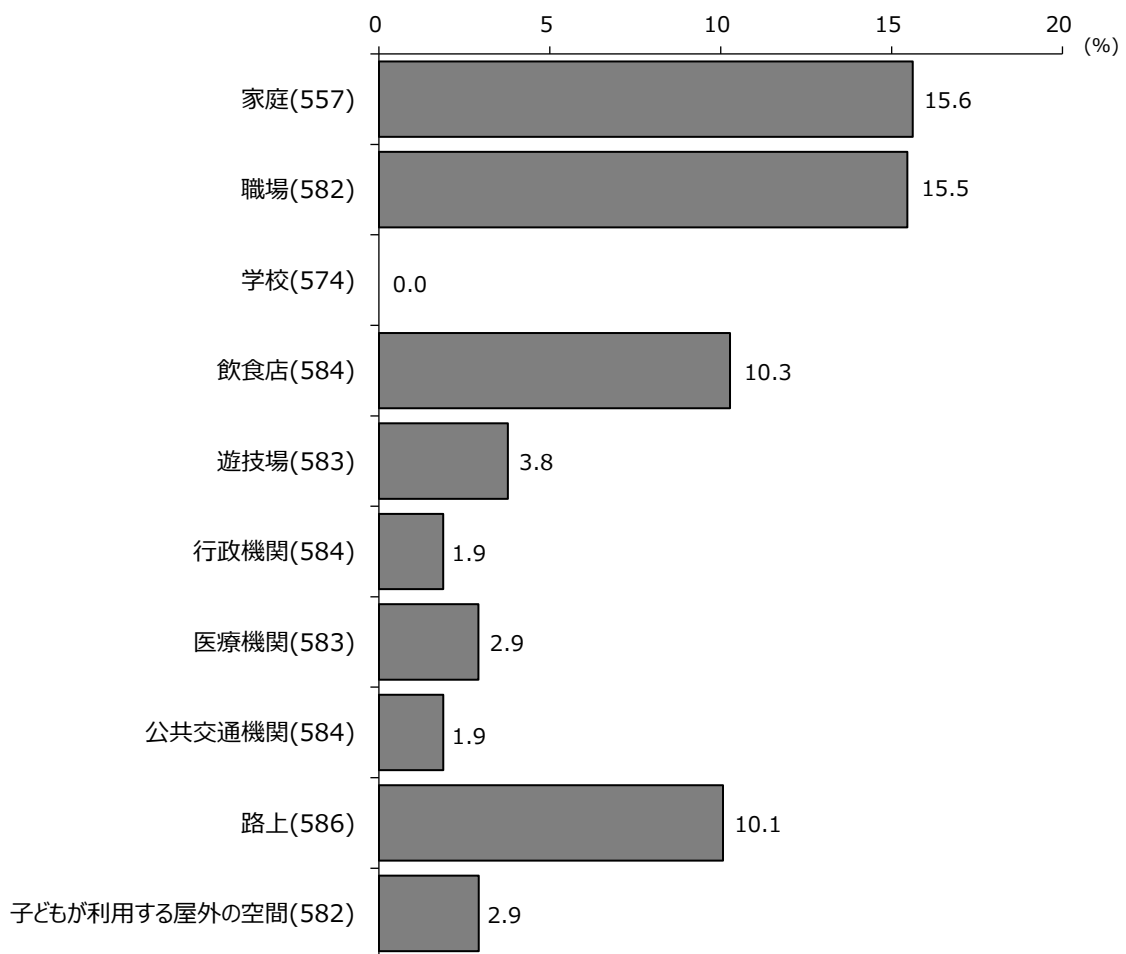


(2) 受動喫煙に関する状況

この1ヶ月間に自分以外の人が吸っていたたばこの煙を月に1回以上吸う機会があった者の割合は、家庭の15.6%が最も高く、次いで職場15.5%、飲食店10.3%である。

また、そのうち、「ほぼ毎日」と回答した者の割合は、家庭の8.4%が最も高く、次いで職場の6.7%であった。

図4-11 この1ヶ月間に自分以外の人が吸っていたたばこの煙を吸う機会があった者の割合（15歳以上、総数）



家庭・職場・飲食店いずれかにおいて望まない受動喫煙を受けた者の割合（20歳以上）28.7%

※「自分以外の人が吸っていたたばこの煙を吸う機会があった者」は、「ほぼ毎日」、「週に数回」、「週に1回」又は「月に1回」と回答した者。

(参考)「健康いわて21プラン(第3次)」の目標
受動喫煙の機会を有する者の割合の低下
目標値：家庭・職場・飲食店いずれかにおいて、望まない受動喫煙を受けた者の割合 0.0%

3 飲酒の状況について

毎日飲酒をする20歳以上の者の割合は、男性32.5%、女性10.2%である。なお、20歳未満で飲酒をする者は男女ともにいなかった。

生活習慣病のリスクを高める量の飲酒をしている者の割合は、男性19.0%、女性10.5%である。

図4-12 飲酒をする頻度（20歳以上、性別）

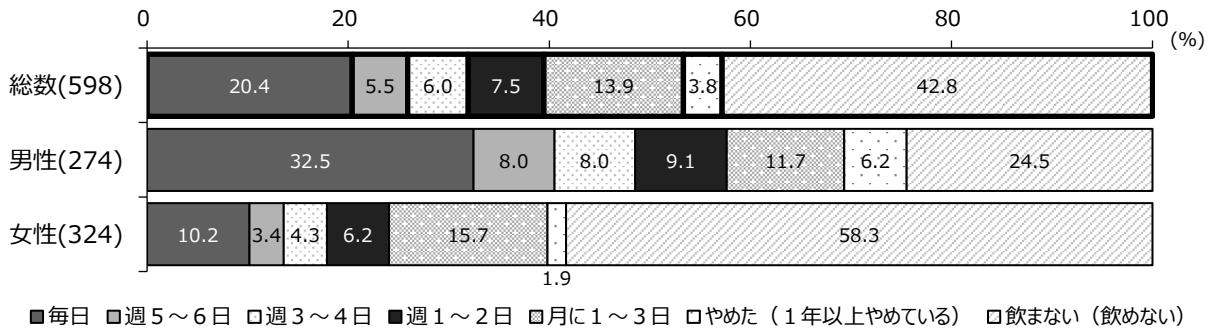
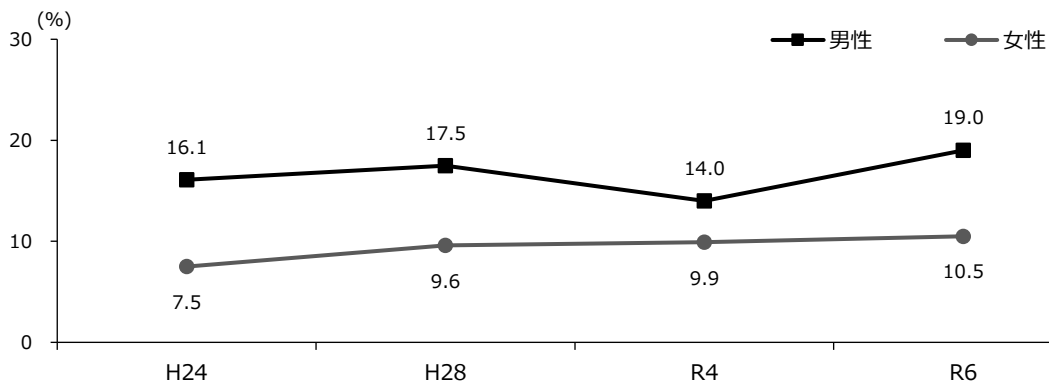


図4-13 生活習慣病のリスクを高める量を飲酒している者の割合の年次推移（20歳以上、性別）



※「生活習慣病のリスクを高める量を飲酒している者」とは、1日当たりの純アルコール摂取量が男性40g以上、女性20g以上の者。

男性：「毎日×2合以上」、「週5～6日×2合以上」、「週3～4日×3合以上」、「週1～2日×5合以上」、「月1～3日×5合以上」

女性：「毎日×1合以上」、「週5～6日×1合以上」、「週3～4日×1合以上」、「週1～2日×3合以上」、「月1～3日×5合以上」

清酒1合（180ml）は、次の量にほぼ相当する。

ビール・発泡酒中瓶1本（約500ml）、焼酎20度（135ml）、焼酎35度（80ml）、缶チューハイ7度（350ml）、ウイスキーダブル1杯（60ml）、ワイン2杯（240ml）

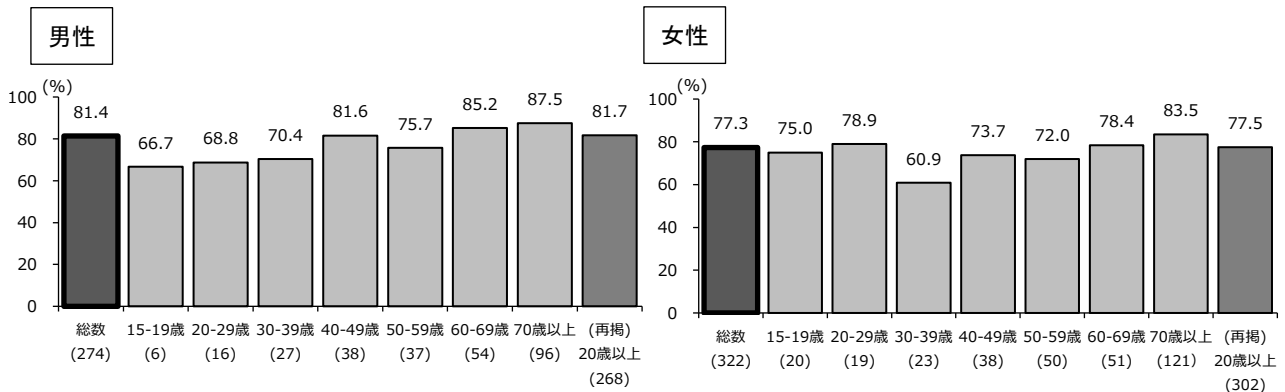
（参考）「健康いわて21プラン（第3次）」の目標
生活習慣病のリスクを高める量を飲酒している者の割合の低下
目標値：男性13.0% 女性6.4%

4 休養や睡眠の状況について

ここ1ヶ月間、睡眠で休養がとれている者の割合は79.2%であり、男性81.4%、女性77.3%である。なお、20歳以上では79.5%（年齢調整値77.6%）である。

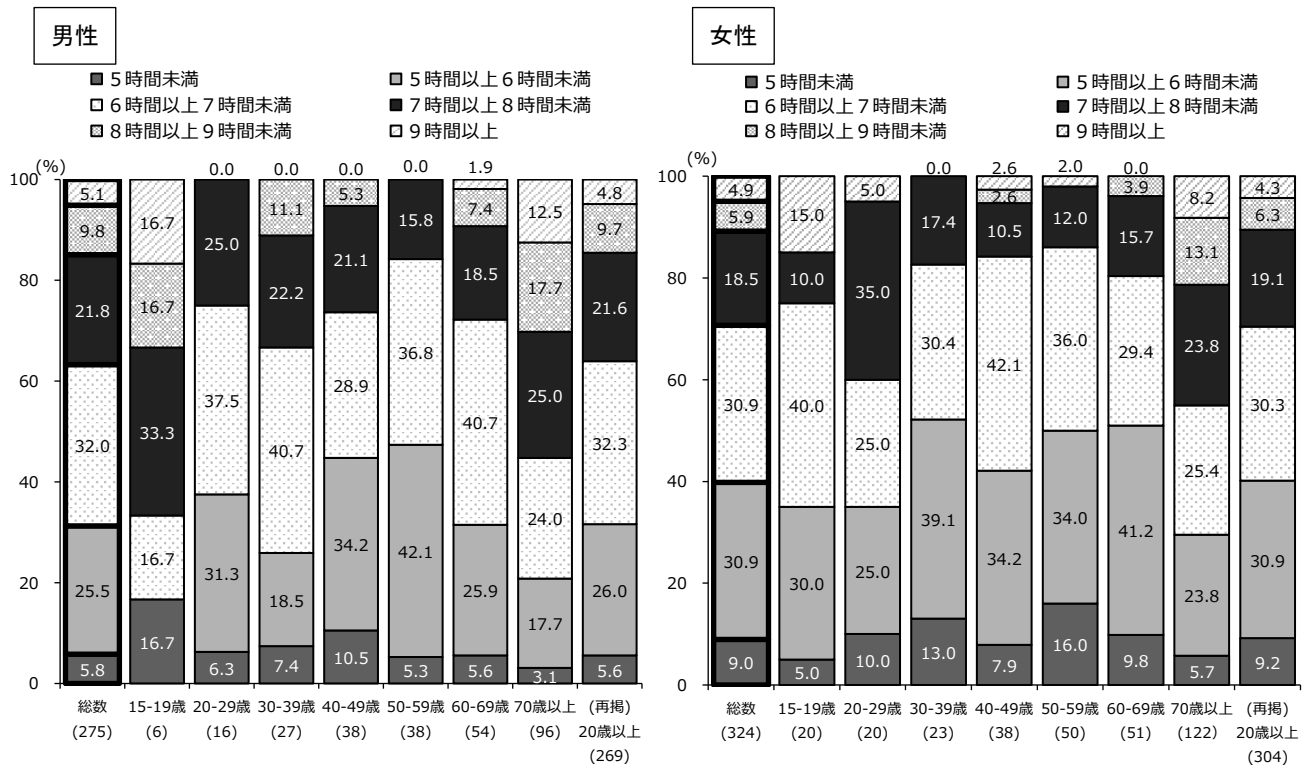
1日の平均睡眠時間が6時間以上9時間未満（60歳以上については6時間以上8時間未満）の20歳以上の割合は52.5%（年齢調整値53.9%）であり、男性55.8%、女性49.7%である。

図4-14 睡眠による休養がとれている者の割合（15歳以上、性・年齢階級別）



睡眠による休養がとれている者の割合（20歳以上、年齢調整値）77.6%

図4-15 1日の平均睡眠時間（15歳以上、性・年齢階級別）



睡眠時間が6～9時間（60歳以上については、6～8時間）の者の割合（年齢調整値）53.9%

※年齢調整値は、令和2年国勢調査による基準人口（20-29歳、30-39歳、40-49歳、50-59歳、60-69歳、70歳以上の6区分）を用いて算出した。

（参考）「健康いわて21プラン（第3次）」の目標

睡眠で休養がとれている者の増加

目標値：睡眠で休養がとれている者の割合（年齢調整値）84.0%

睡眠時間が十分に確保できている者の増加

目標値：睡眠時間が6～9時間（60歳以上については、6～8時間）の者の割合（年齢調整値）60.0%

5 社会的環境（地域のつながり）について

地域の人々がお互いに助け合っていると思う者の割合は、男性 51.1%、女性 52.3%である。年齢階級別にみると、男女ともに 70 歳以上が最も高い。

図 4-16 地域の人々がお互いに助け合っていると思う者の割合（15 歳以上、性・年齢階級別）

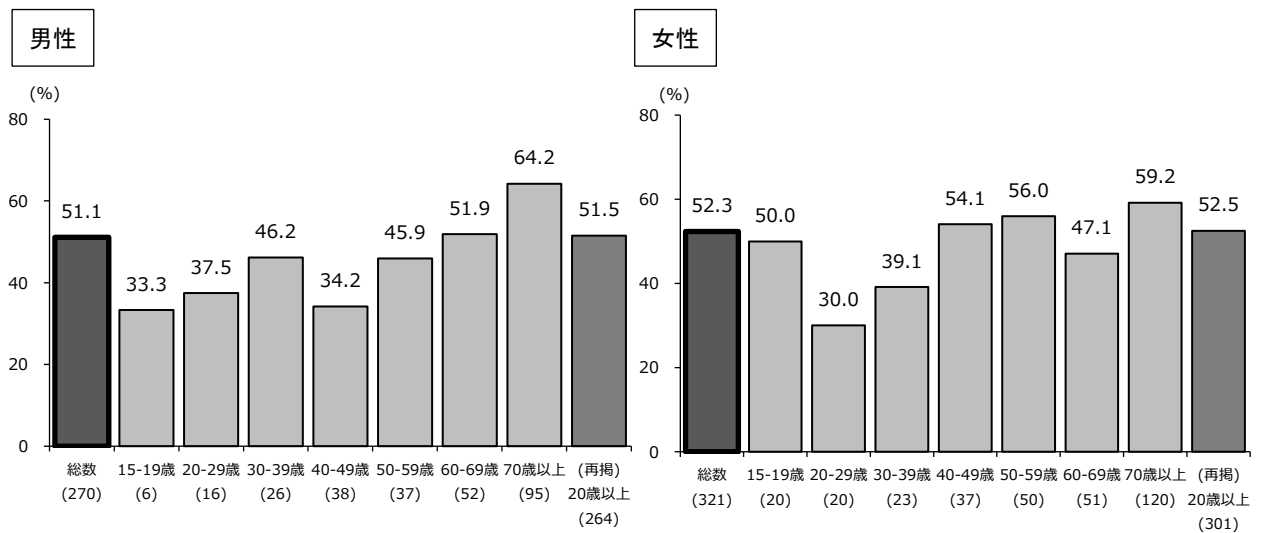
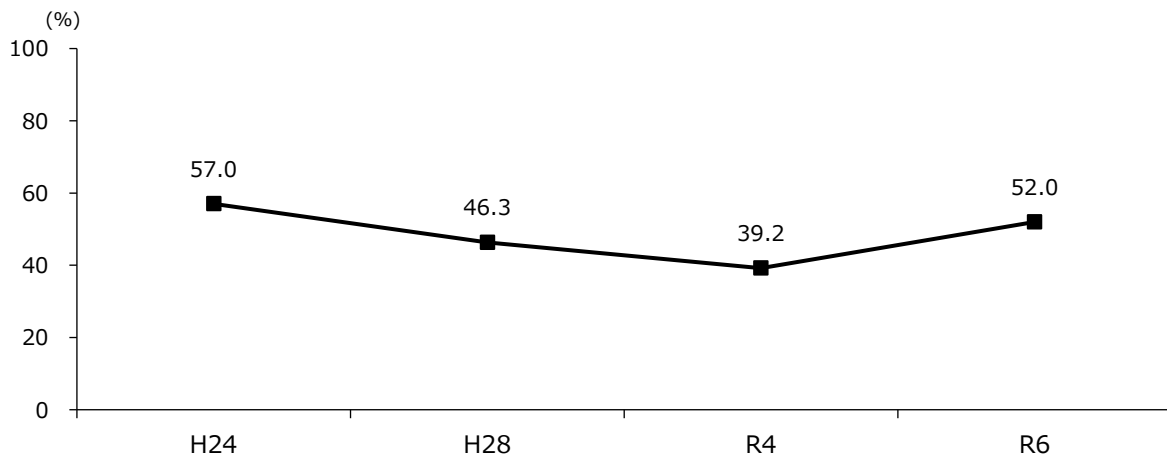


図 4-17 地域の人々がお互いに助け合っていると思う者の割合の年次推移（20 歳以上、総数）



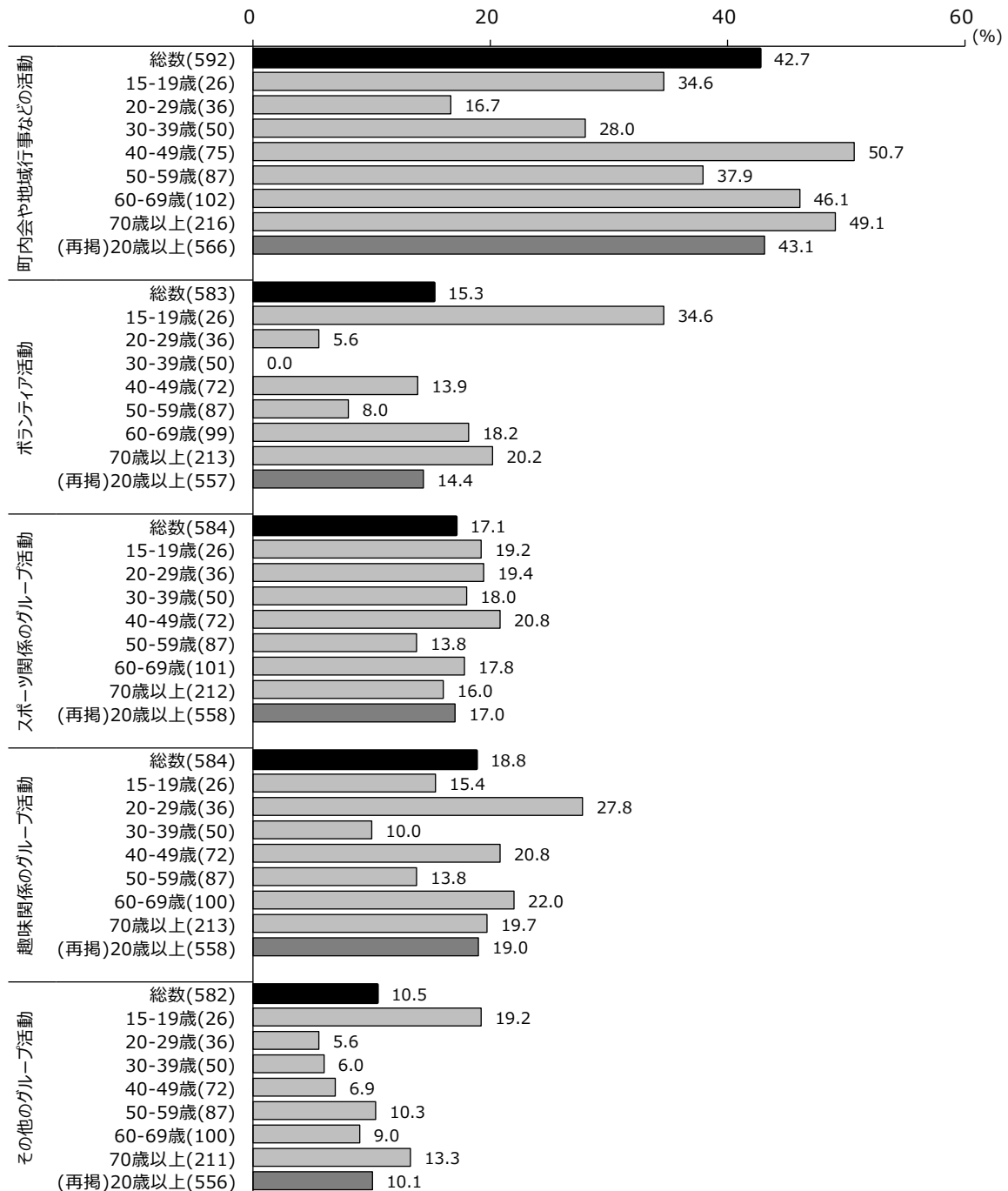
※「お互いに助け合っていると思う者」は、「強くそう思う」又は「どちらかといえばそう思う」と回答した者。

(参考)「健康いわて 21 プラン(第3次)」の目標
 地域の人々とのつながりが強いと思う者の増加
 目標値：居住地域でお互いに助け合っていると思う者の割合 73.0%

6 ボランティア活動等への参加状況について

現在、町内会、地域行事、ボランティア活動やスポーツ、趣味などのグループ活動に年に数回以上参加している者の割合は、町内会や地域行事などの活動が42.7%と最も高く、次いで、趣味関係のグループ活動18.8%である。

図4-18 町内会、地域行事、ボランティア活動やスポーツ、趣味などのグループ活動に参加している者の割合（15歳以上、総数・年齢階級別）

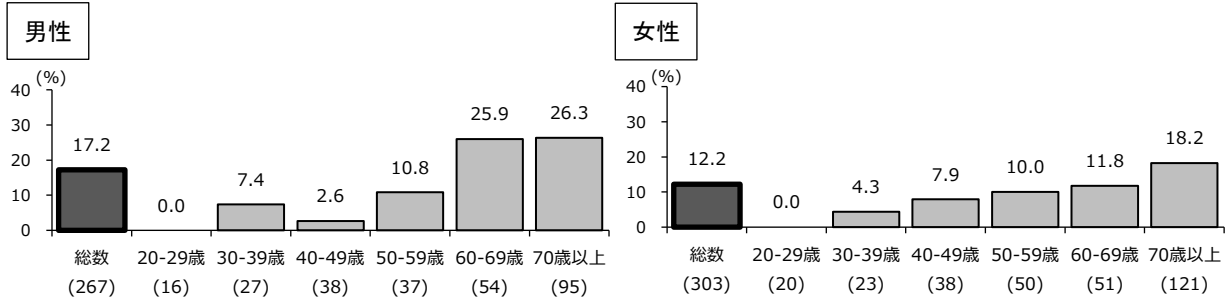


※「参加している者」は、「週4日以上」、「週2～3回」、「週1回」、「月1～3回」又は「年に数回」と回答した者の合計。
 ※複数回答のため、内訳合計が100%にならない。

7 糖尿病に関する状況について

これまでに医療機関や健診で糖尿病といわれたことがある者の割合は、男性17.2%、女性12.2%である。また、その者のうち、治療を継続している割合は71.1%、治療を受けたことがない割合は20.5%である。

図4-19 これまでに医療機関や健診で糖尿病といわれたことがある者の割合（20歳以上、性・年齢階級別）



※「糖尿病といわれたことがある者」とは、医療機関や健診で「境界型である」、「糖尿病の気がある」、「糖尿病になりかけている」、「血糖値が高い」などのようにいわれた者。

図4-20 糖尿病といわれたことがある者の治療の状況（20歳以上、性別）

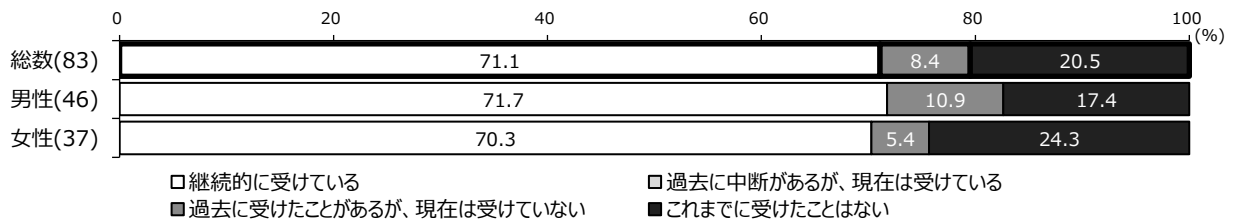


図4-21 糖尿病といわれたことがある者のうち、治療を受けたことがない者の割合（20歳以上、総数・年齢階級別）

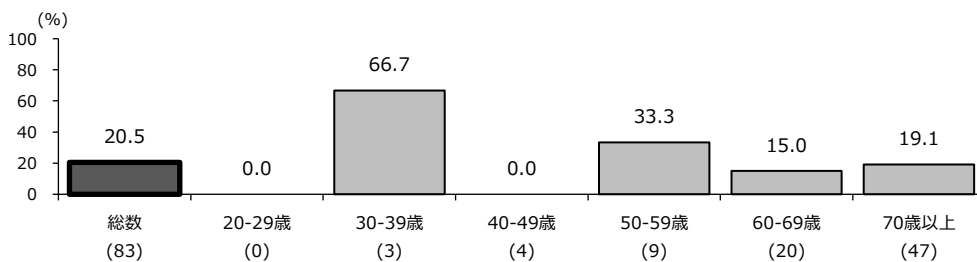
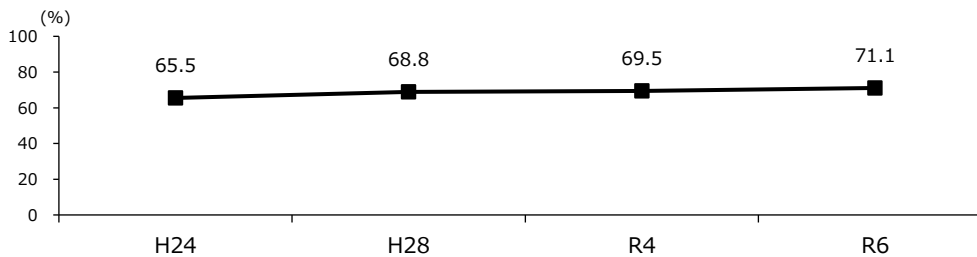


表4-22 糖尿病といわれたことがある者のうち、治療継続者の割合の年次推移（20歳以上、総数）



※「治療継続者」とは、糖尿病の治療（通院による定期的な検査や生活習慣の改善指導を含む）を「過去から現在にかけて継続的に受けている」又は「過去に中断したことがあるが、現在は受けている」と回答した者。

(参考)「健康いわて21プラン(第3次)」の目標
 糖尿病治療継続者の割合の向上
 目標値：糖尿病治療継続者の割合 75.0%

糖尿病治療中に、歯周病予防のために歯科医院を受診した者の割合は23.4%である。
 現在、インスリン注射または血糖を下げる薬を使用している者の割合は48.1%、また、生活習慣を改善する取り組みを行っている者の割合は70.7%である。

図4-23 糖尿病治療中に、歯周病予防のために歯科医院を受診した者の割合（過去に受診した場合も含む）（20歳以上、性別）

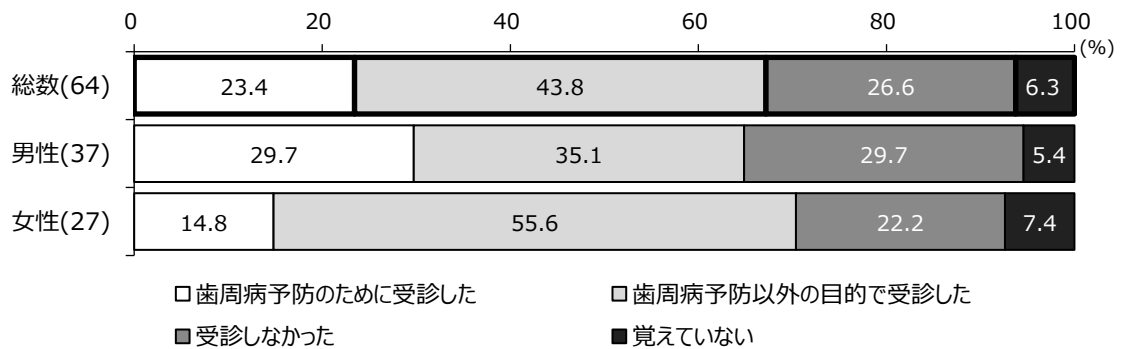


図4-24 医療機関や健診で糖尿病といわれたことがある者のうち、現在、インスリン注射または血糖を下げる薬を使用している割合（20歳以上、総数・年齢階級別）

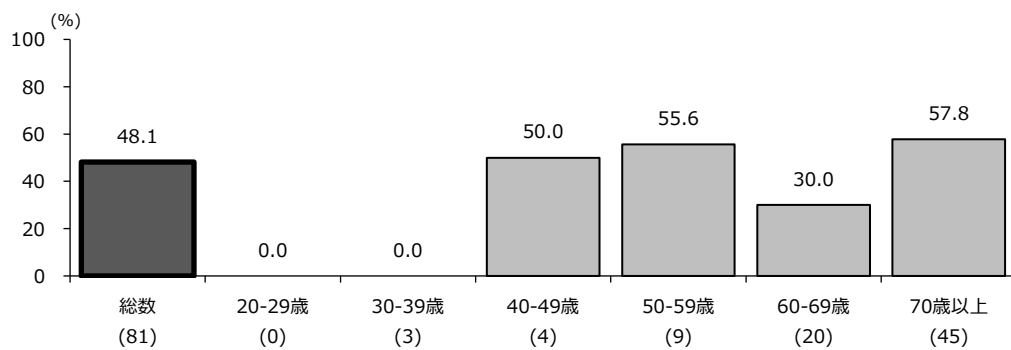
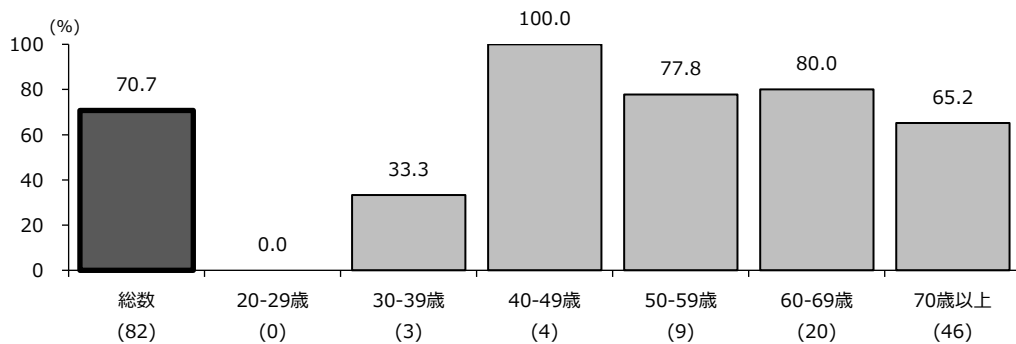


図4-25 医療機関や健診で糖尿病といわれたことがある者のうち、現在、生活習慣を改善する取り組みを行っている割合（20歳以上、総数・年齢階級別）



第5 歯科疾患実態調査アンケート調査

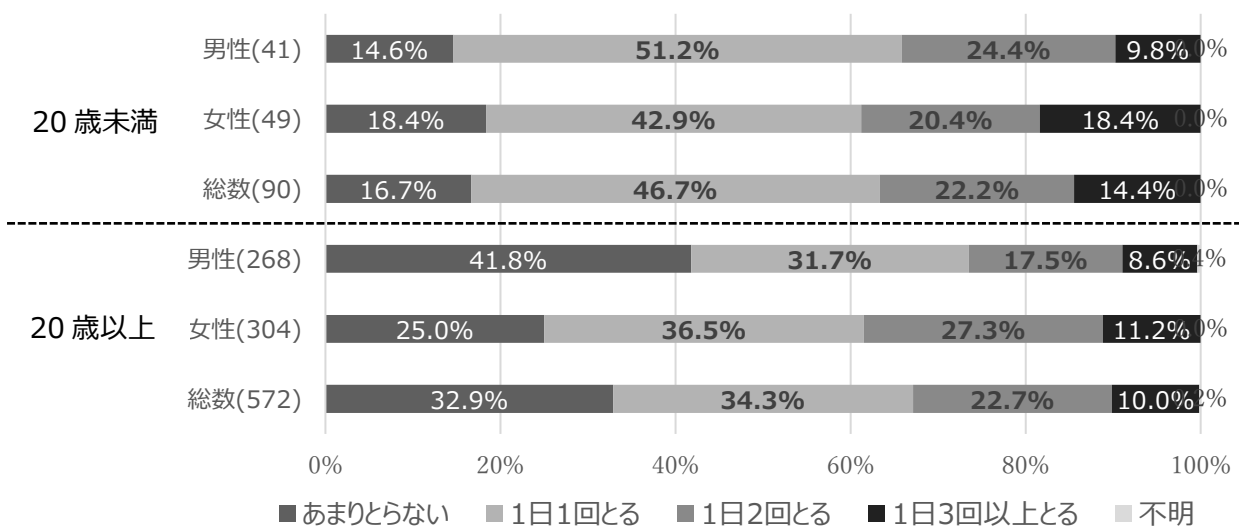
1 間食の摂取状況

1日の間食の摂取回数について、20歳未満、以上で年齢区分した割合を図5-1で示す。

20歳未満の約8割が1日1回以上間食をとっていた一方で、間食をあまりとらない者は、男女ともに2割弱であった。

20歳以上では、間食をあまりとらない者（32.9%）が増加し、特に男性（41.8%）が高い傾向にあった。

図5-1 1日に何回間食をとっていますか。



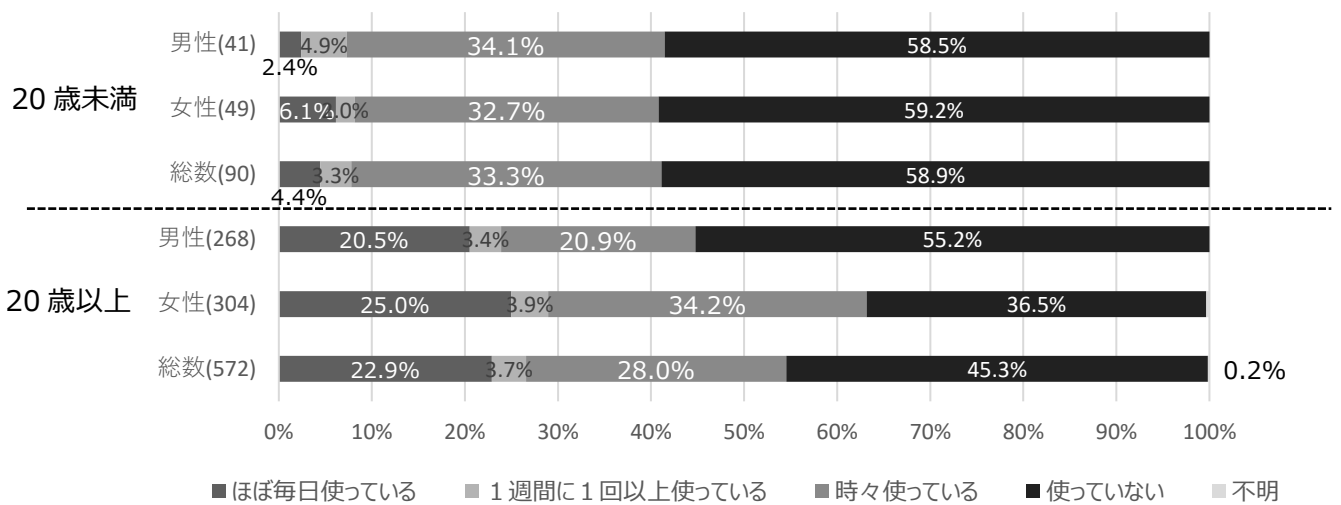
2 歯間清掃の実施状況

歯間ブラシの使用状況について、「ほぼ毎日使用」、「1週間に1回以上使用」、「時々使用」、「使っていない」、及び「不明」の年齢区分（20歳未満、20歳以上）・性別の割合を図5-2に示す。

20歳未満では、約6割が使用しておらず、ほぼ毎日使用するものは男性2.4%、女性6.1%であった。

一方20歳以上では、「ほぼ毎日使用」、「1週間に1回以上使用」、「時々使用」総計で約5割となっており、特に女性は約6割が歯間ブラシを使用している状況であった。

図5-2 歯間清掃用具を使っていますか



3 専門的な歯科保健管理の状況

(1) 定期的な歯科検診（健診）の受診状況

歯科検診（健診）の受診について、「年に2回以上」、「年に1回」、「1年以上前」、「受けていない」、及び「不明」の年齢区分（20歳未満、20歳以上）・性別の割合を図5-3、どこで検診を受けたかを図5-4に示す。

20歳未満の86.6%が「年に1回以上受けている」と回答し、特に男性の約9割が1年以内に歯科検診を受診していた一方で、20歳以上の半数が「歯科健診を受けていない」と回答した。

また、どこで健診を受けたかについては、20歳未満の方は「学校」と回答した方が多く（60.3%）、20歳以上では医療機関（98.2%）との回答が多かった。

図5-3 定期的に歯科検診（健診）を受けていますか

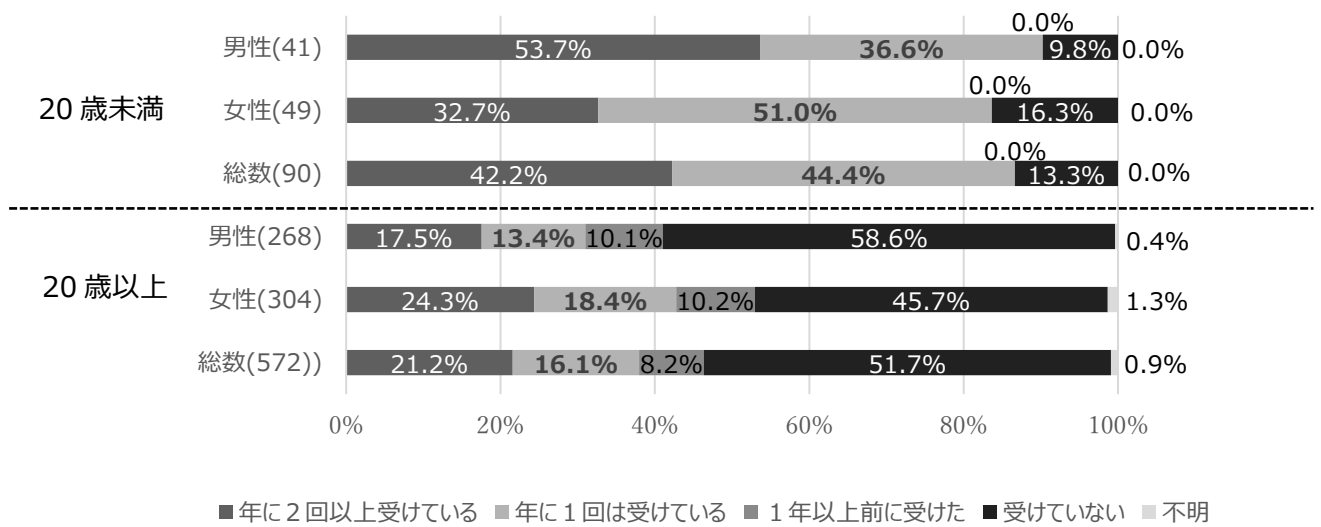
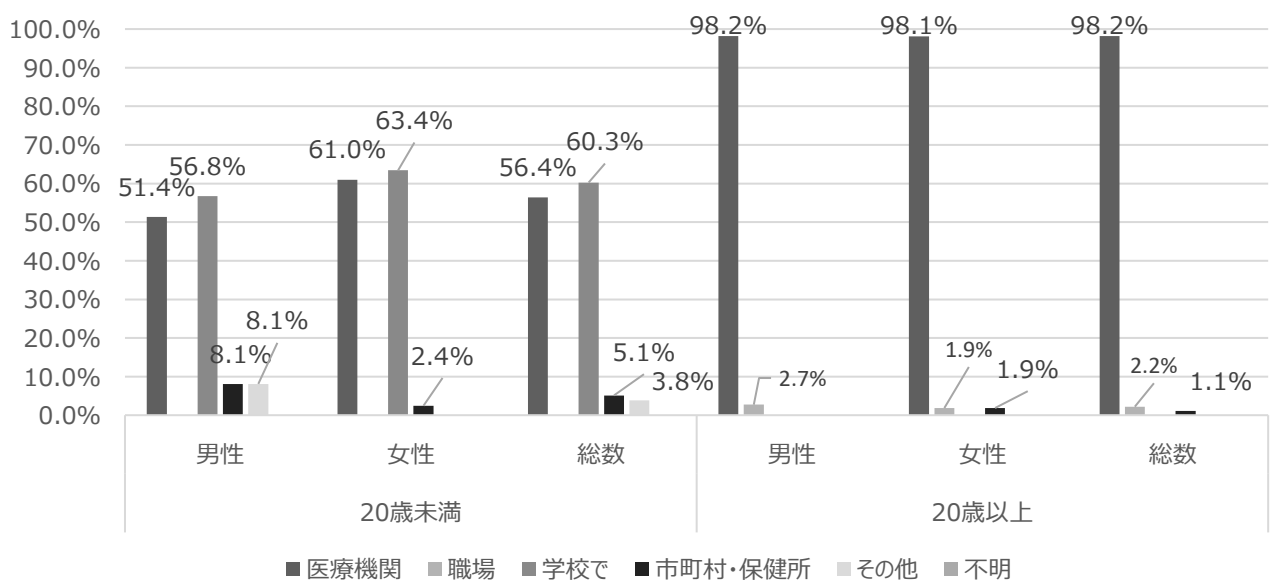


図5-4 どこで検査を受けていますか（複数回答）



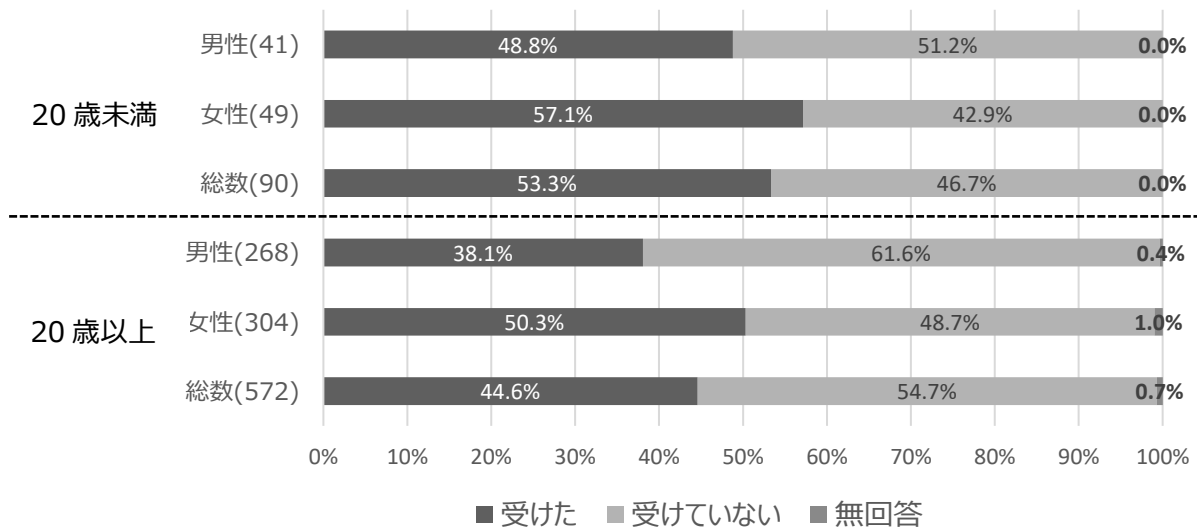
(参考)「健康いわて21プラン(第3次)」・「イー歯トープ8020プラン(第2次)」の目標
過去1年間に歯科検診を受診した者の割合の増加 95.0%

(2) 歯石除去や歯面清掃の状況

歯石除去及び歯面清掃を受けた状況について、年齢区分（20歳未満、20歳以上）・性別の割合を図5-5に示す。

20歳未満では、この1年間に歯石除去や歯面清掃を受けた者の割合は半分程度（53.3%）であったが、20歳以上では44.6%であり、特に男性は38.1%となっている。

図5-5 この1年間に歯石の除去や歯面の清掃を受けましたか

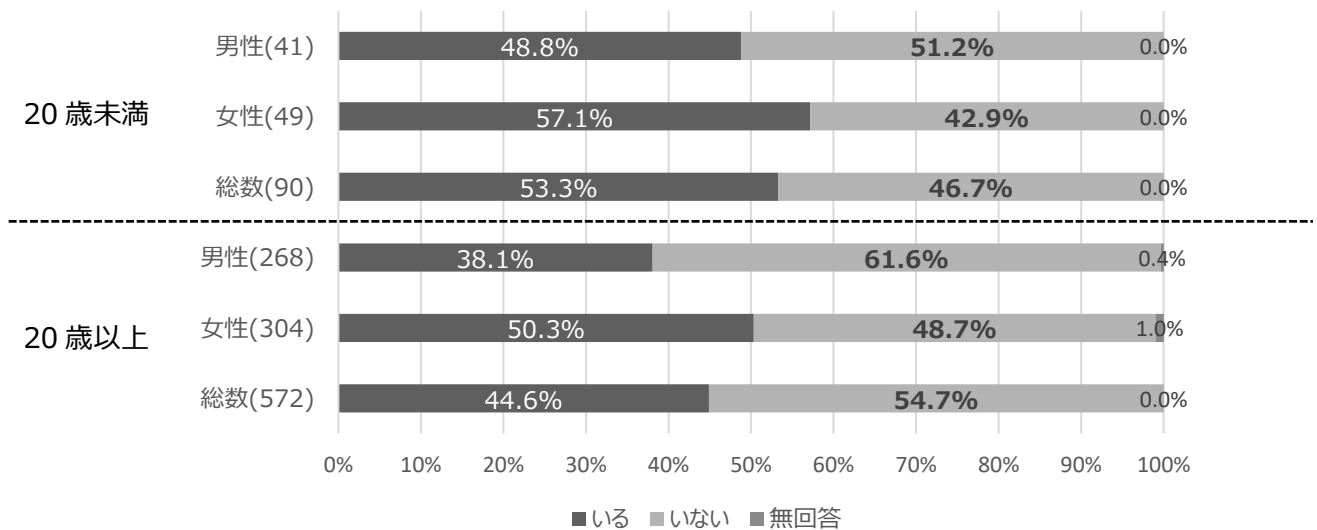


4 かかりつけ医の状況

かかりつけ歯科医の有無について、年齢区分（20歳未満、20歳以上）・性別の割合を図5-6に示す。

20歳未満では、かかりつけ医がいる者の割合が概ね半分程度いたが、20歳以上では44.6%となっており、特に男性はかかりつけ医がない者の割合が高かった。

図5-6 かかりつけ歯科医はいますか



5 咀嚼の状況

(1) 何でも噛んで食べることができる状況（15歳以上）

噛んで食べることができる状況について年齢区分ごとに図5-7及び図5-8に示す。
「何でもたべることができる」者の割合は年齢が上がっていくにつれて減少し、80歳以上で約6割であった。

図5-7 食べ物をかんで食べる時の状態についてどれがあてはまりますか

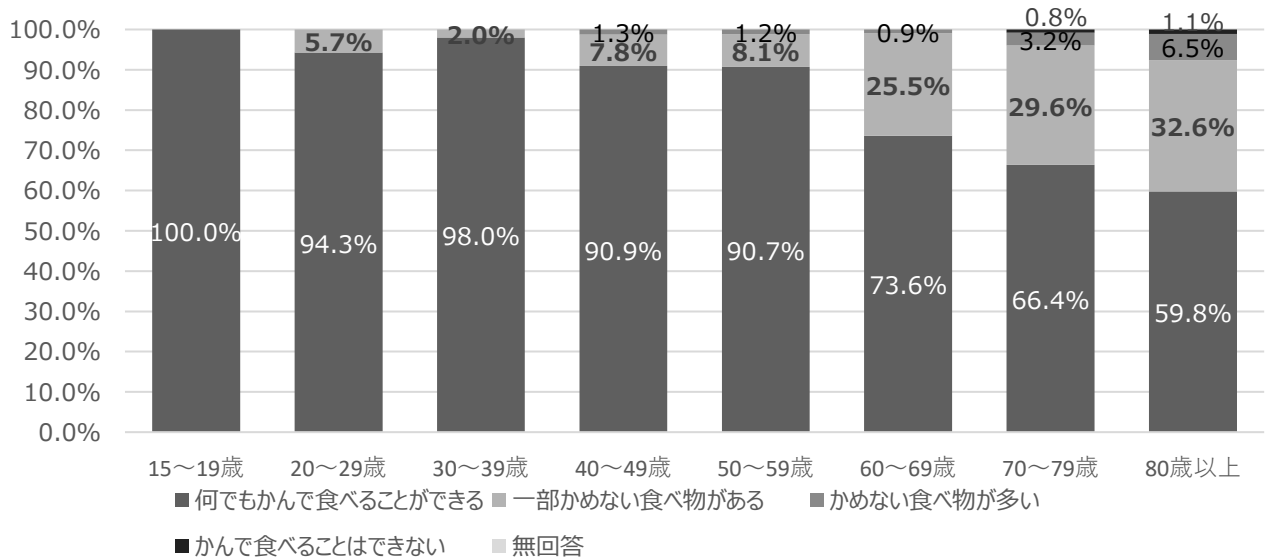
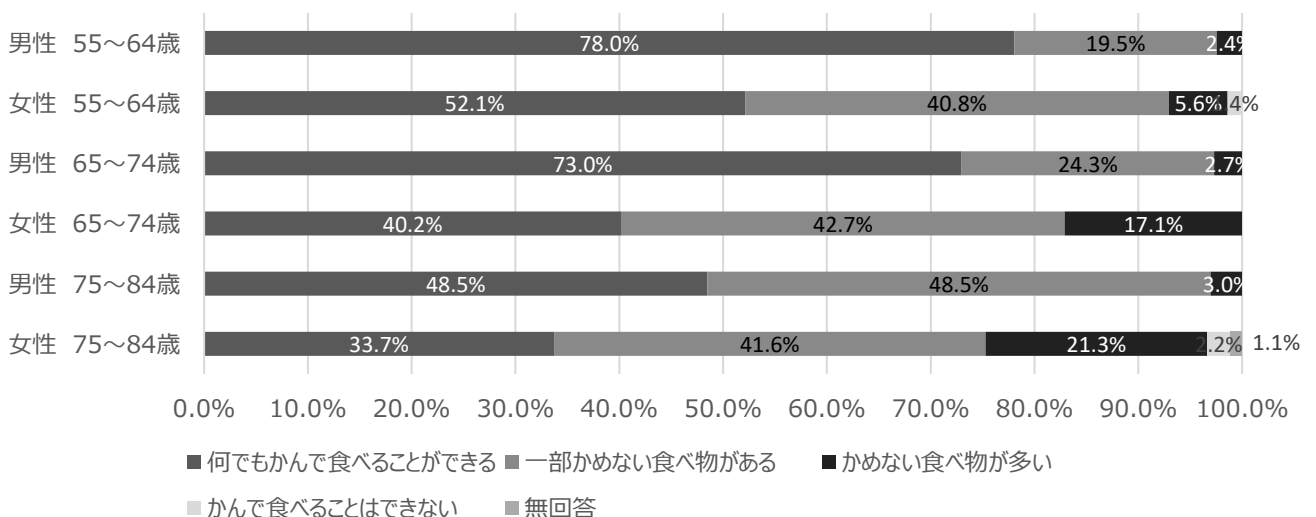


図5-8 食べ物をかんで食べる時の状態についてどれがあてはまりますか

(55歳から84歳までの状況)

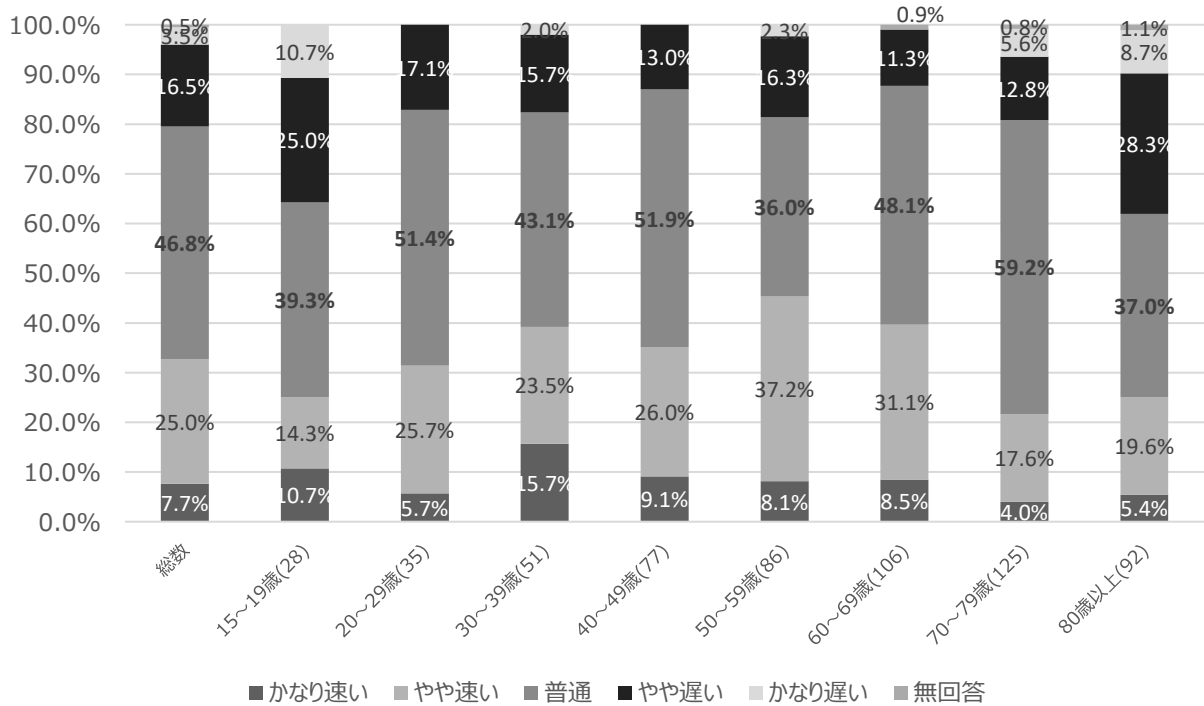


(参考)「健康いわて21プラン(第3次)」 「イー歯トープ8020プラン」の目標
50歳以上における咀嚼良好者の割合の増加 90.0%

(2) 食べる速さの状況 (15歳以上)

食べる速さの状況について、年齢区分ごとに図5-9に示す。
 各年代ともに「普通」と回答した者の割合が多く、全体の46.8%であった。ついで「やや速い」と回答した者の割合が25.0%で、「かなり早い」と合わせると、全体の約1/3となっている。

図5-9 人と比べて食べる速さはどのくらいですか

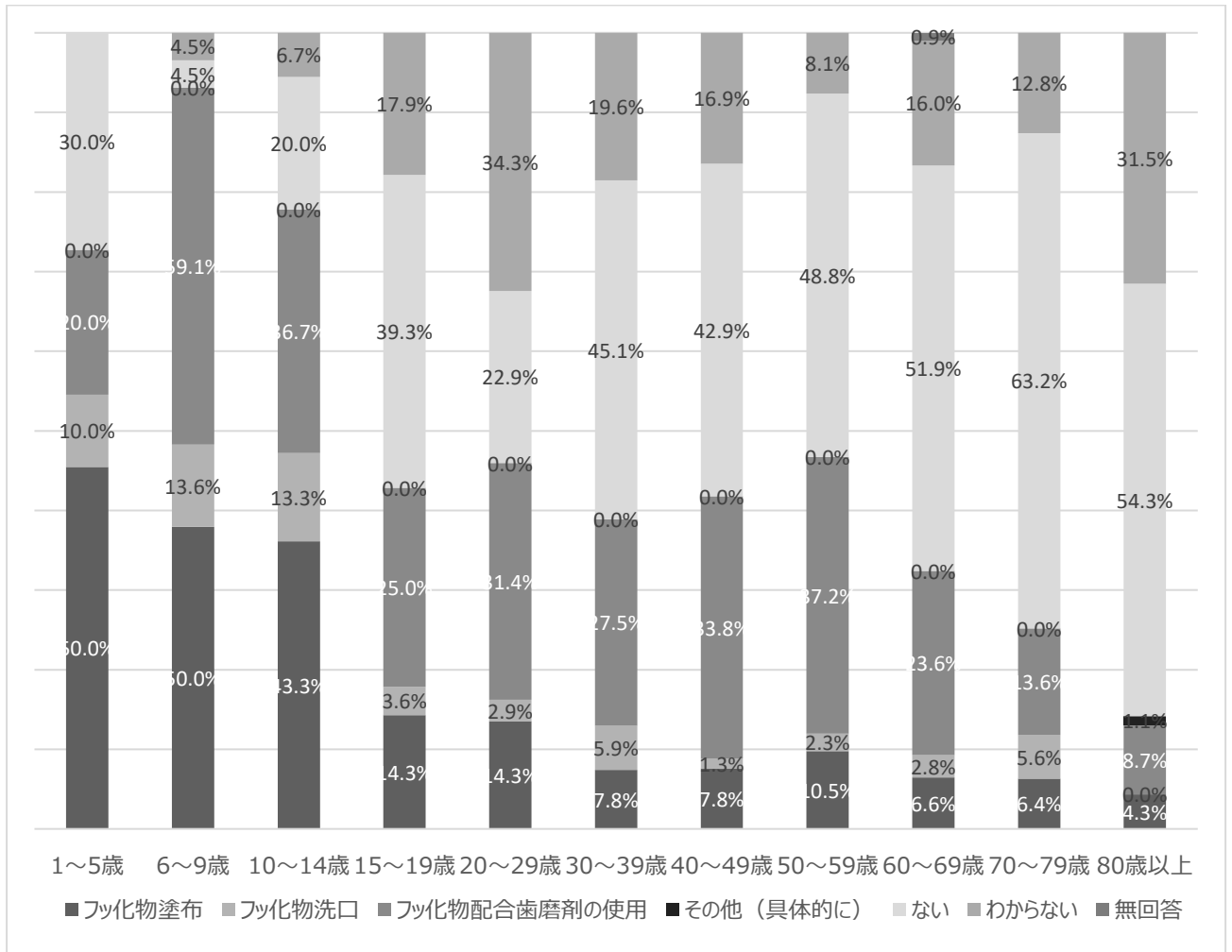


6 フッ化物使用の状況

過去1年間のフッ化物の使用状況について、図5-10に示す。

若年層では、市町村健診でもフッ化物塗布や学校でのフッ化物洗口とフッ化物配合歯磨剤を併用している状況だが、60歳代以上では、フッ化物配合歯磨剤の使用が半数以上となっている。(複数回答あり)

図5-10 過去1年間にフッ化物（フッ素）を使用したことがありますか



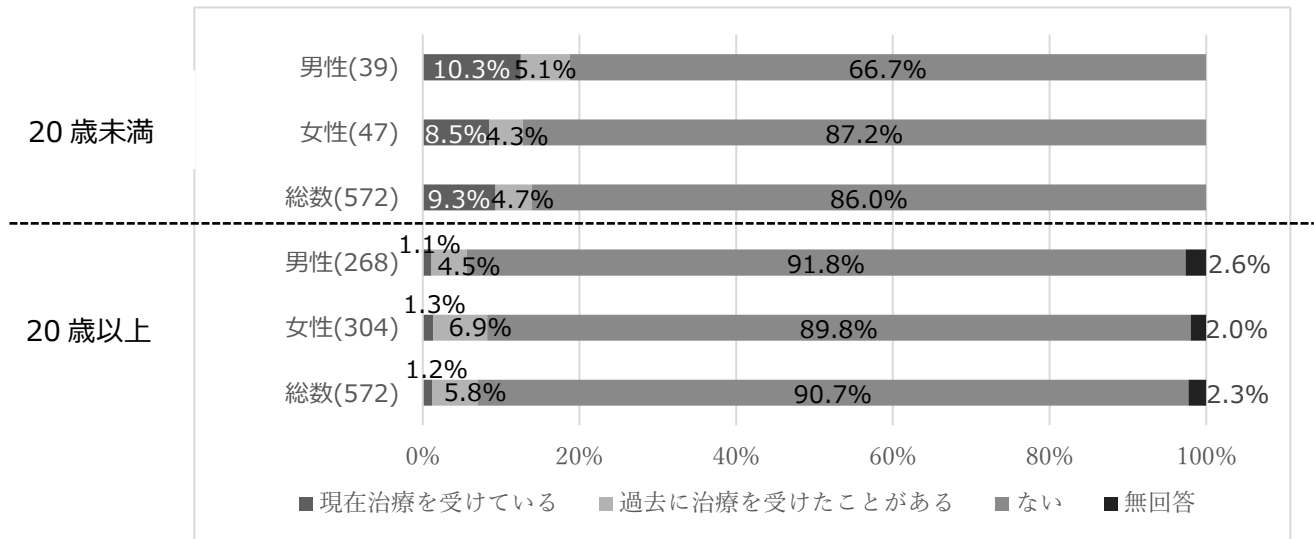
7 矯正歯科治療の経験（3歳以上）

矯正歯科治療の経験について、図5-11に示す。

矯正歯科治療の経験については、20歳未満で14%あったが、20歳以上では7.0%であった。

また、20歳未満では男性（15.4%）の方が、女性（12.8%）より高かったのに対し、20歳以上では、女性（8.2%）の方が、男性（5.6%）より高かった。

図5-11 矯正治療を受けたことがありますか

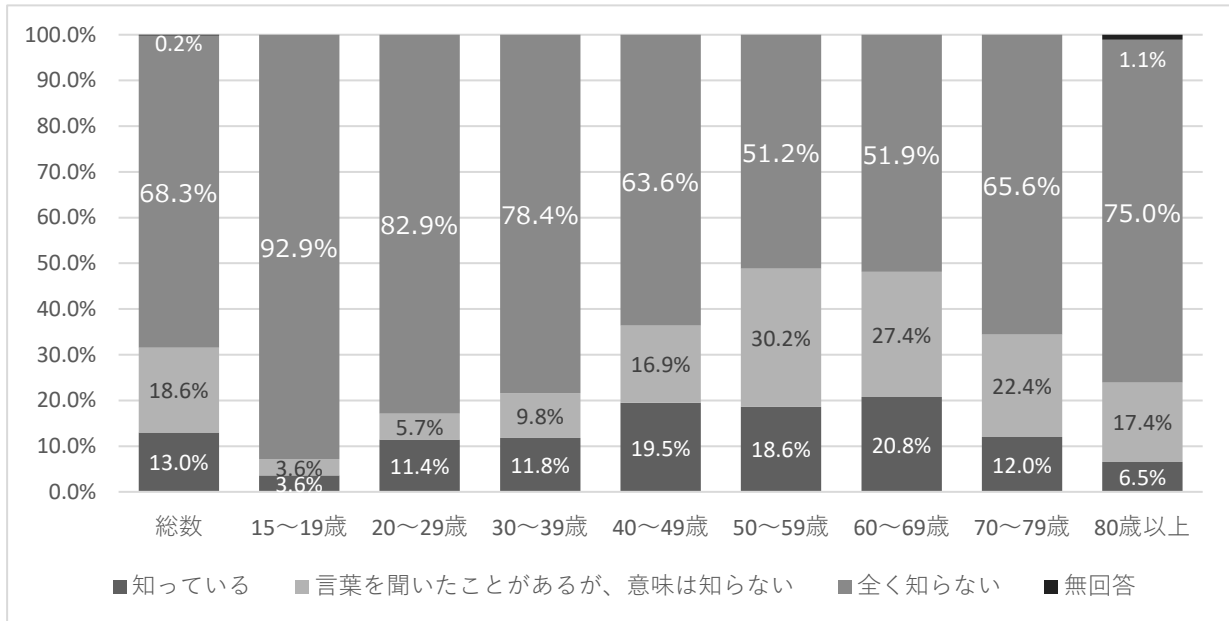


8 歯科口腔保健に係る用語に関する理解

(1) オーラルフレイル

若年層ほど知らないと回答した者が多かった。40歳以上で「全く知らない」と回答した者は令和4年調査と比較すると減少している（令和4年調査 40～49歳 66.1%、50～59歳 62.7%）。

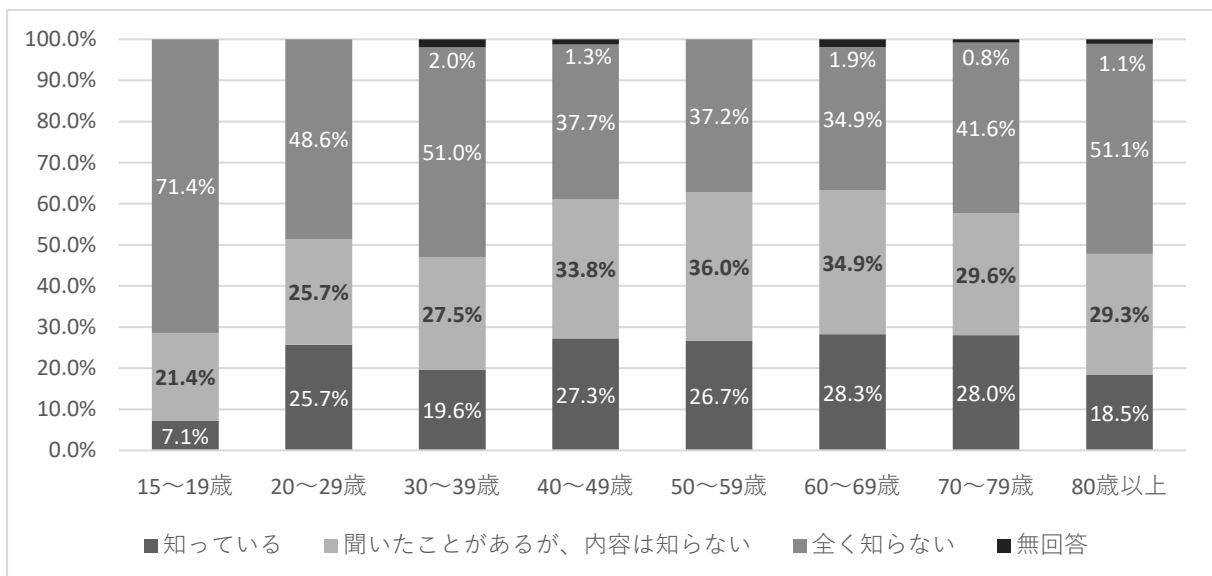
図5-12 オーラルフレイルという言葉を知っていますか。



(2) 糖尿病と歯周病の関係

40歳以上の半数以上が「知っている」または「聞いたことがあるが内容は知らない」と回答した方の割合が多く、若年層ほど「知らない」と回答した方の割合が多かった。

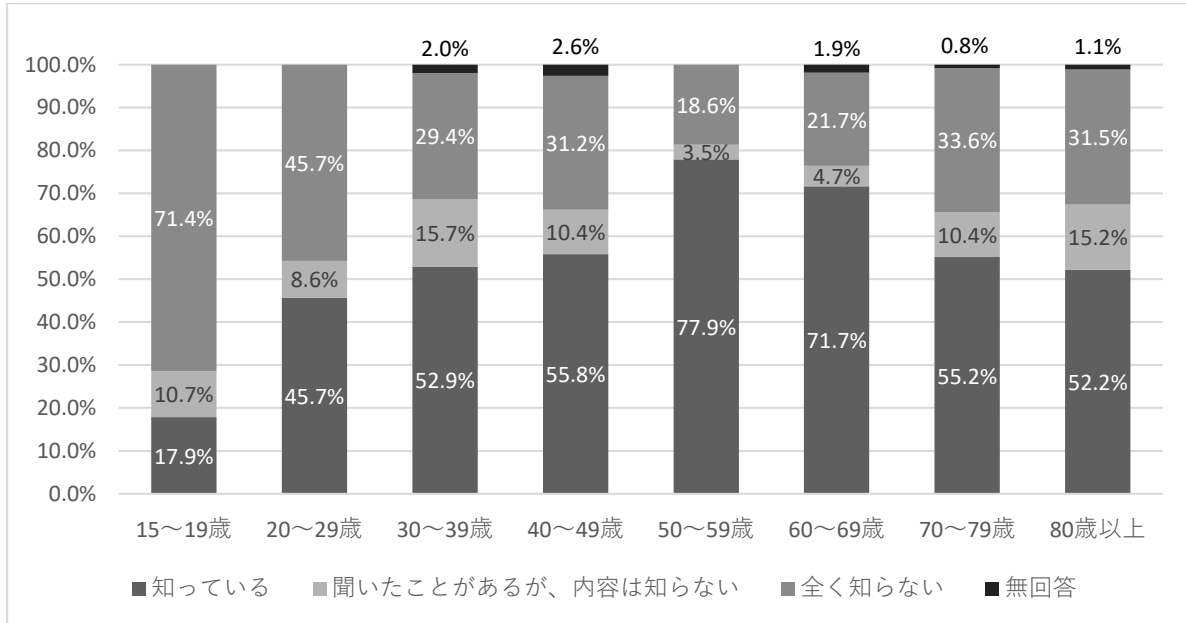
図5-13 糖尿病と歯周病の関係を知っていますか。



(3) 8020 (ハチマルニイマル) 運動

30歳代以上の群で半数以上の人を知っていると回答があったが、若年層では半数が知らないとの回答だった。

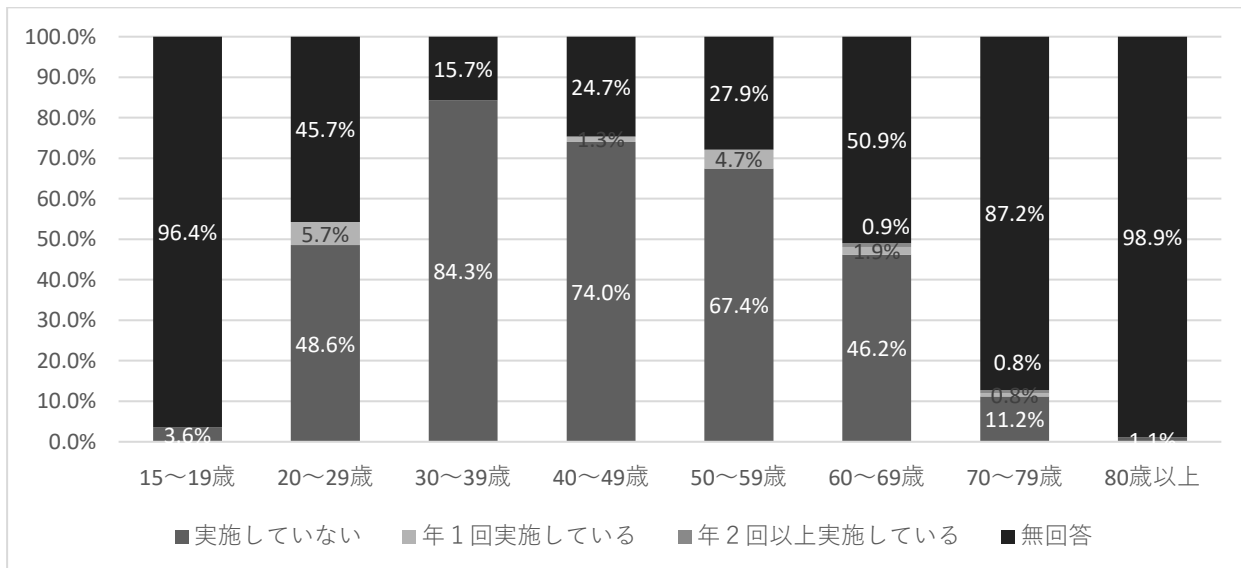
図 5-14 「8020 (ハチマルニイマル) 運動」という言葉を知っていますか



9 企業における定期歯科健診の実施状況

企業における定期歯科健診の状況は、働き盛り世代である30歳代から50歳代の群で半数以上が実施していないという回答だった。

図5-15 現在、企業に勤務している方にお聞きします。職場で定期歯科健診を実施していますか。



第6 <参考>全国と岩手県の状況

全国と岩手県の年次推移（平成21年度～令和6年度）を示しています。

なお、調査年（年度）ごとに被調査者の年齢構成が異なっていますが、本資料では年齢の違いを調整していない数値を用いています。そのため、結果には年齢構成の違いの影響が含まれている可能性がありますので、ご覧いただく際はご注意ください。

〔出典〕全 国：厚生労働省「国民健康・栄養調査報告」（平成24年、平成28年、令和6年は全国補正值）
岩手県：岩手県「県民生活習慣実態調査」

図6-1 肥満者(BMI $\geq 25\text{kg}/\text{m}^2$)の割合の年次推移（20歳以上、性別）

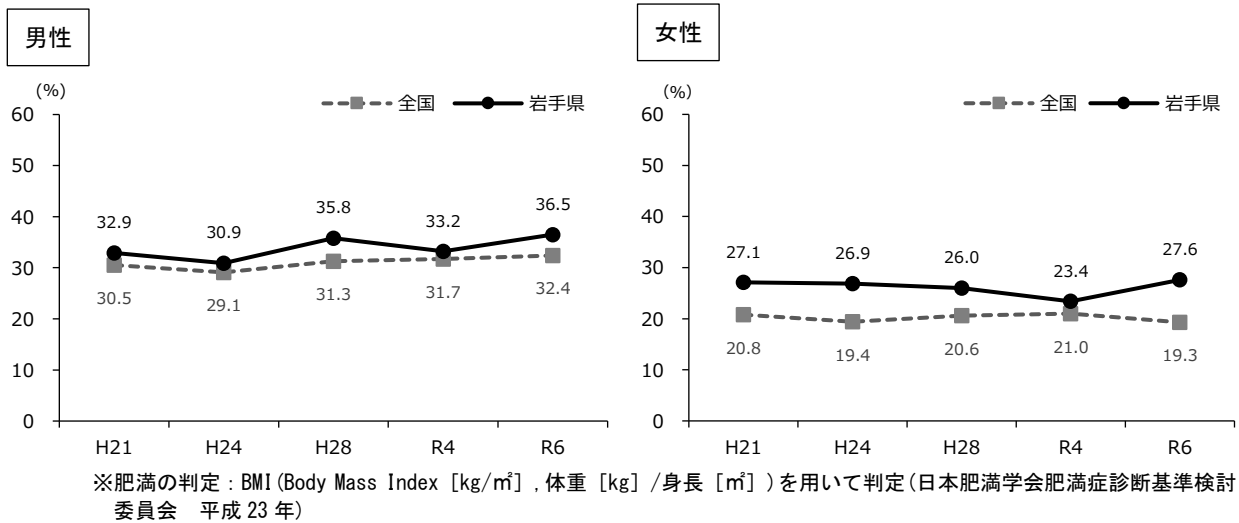


図6-2 食塩摂取量の平均値の年次推移（20歳以上、総数・性別）

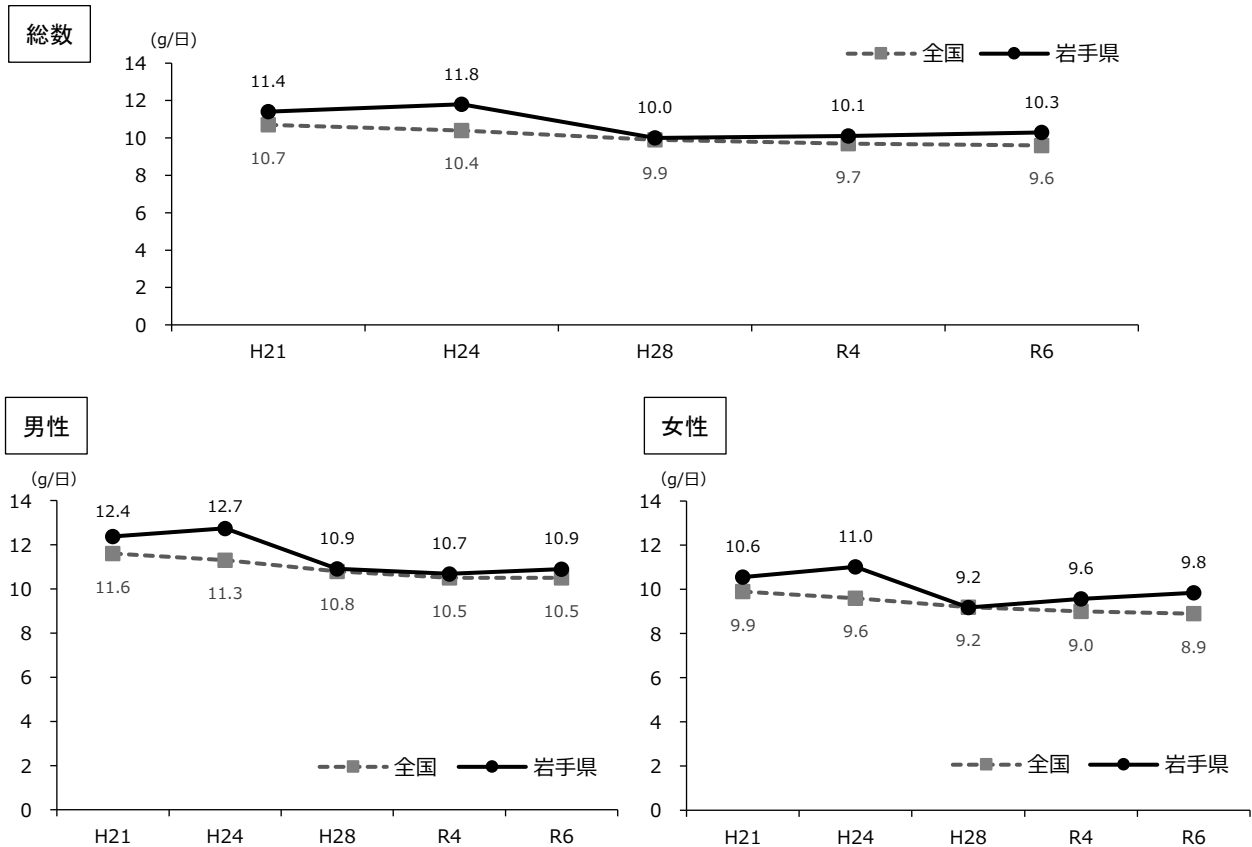


図 6-3 野菜摂取量の平均値の年次推移 (20 歳以上、総数・性別)

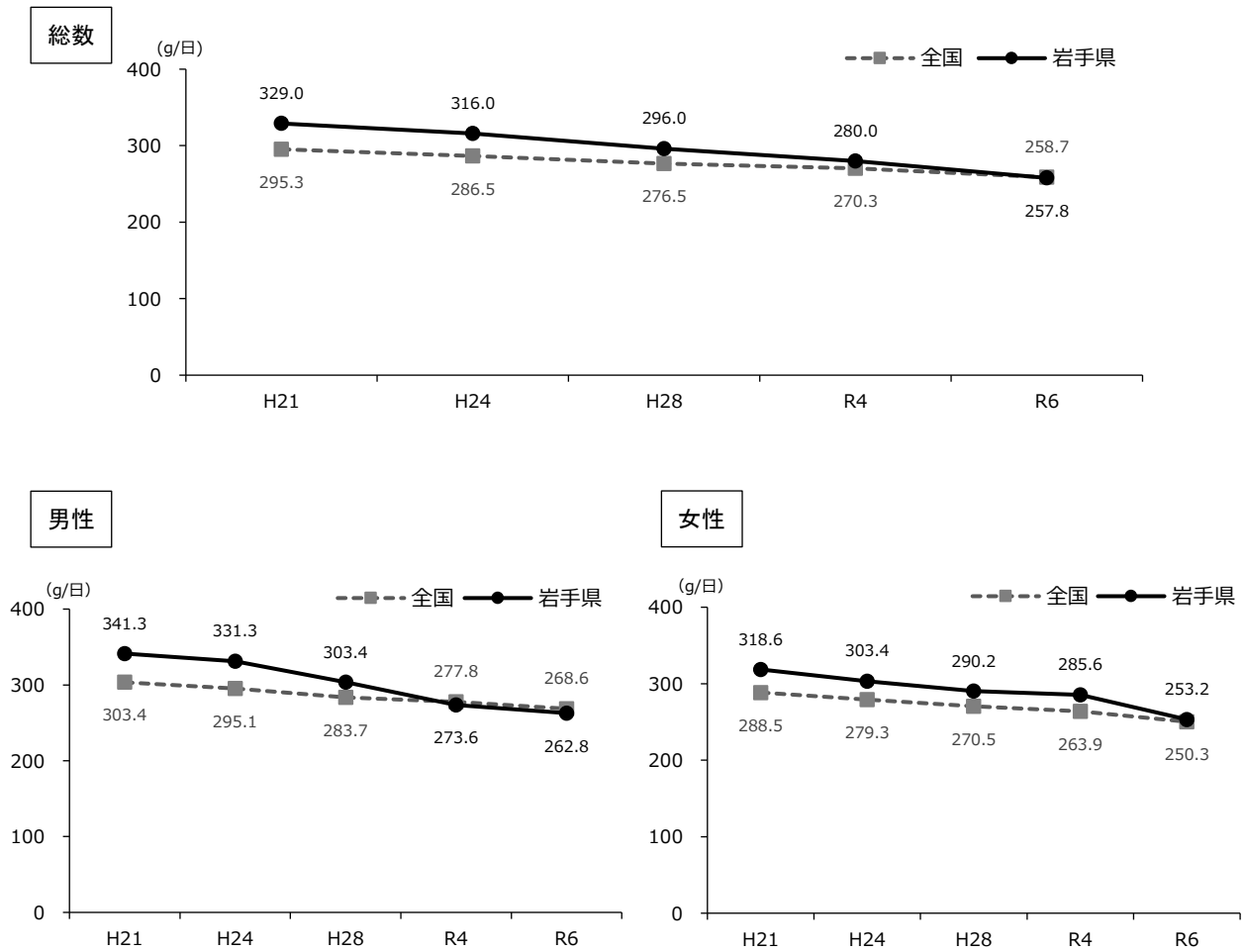


図 6-4 現在、習慣的に喫煙している者の割合の年次推移 (20 歳以上、性別)

